ONKYO®

AV センター

TX-SA607

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

- ■ 各種サラウンド方式に対応した 7 チャンネルアンプ
- ■ フロントハイスピーカー接続端子装備
- ■ サブウーファー用 PRE OUT 端子 2 系統装備
- ■ ドルビー*1 デジタルプラス、ドルビー TrueHD 再生可能
- ■ ドルビー Pro Logic IIz（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ■ DTS*2- HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS-HD マスターオーディオ、DTS Express 再生可能
- ■ DTS サラウンドセンセーションリスニングモード搭載
- ■ AAC*3 デコーダー搭載
- ■ ファロージャ DCDi エッジエンハンサー機能搭載
- ■ ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- ■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Cinema FILTER*4」機能
- ■ LFEch を持たないソースでもサブウーファーを効果的に動作させる「ダブルバス」回路
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる LATE NIGHT 機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 時のみ）
- ■ 24 ビット /192kHz D/A コンバーター搭載
- ■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC*5（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
- ■ 再生周波数の広帯域化を図る WRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）搭載
- ■ ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」回路
- ■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上の S/N を向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- ■ 本機付属のリモコン 1 つで他社製 TV と本機がシステムリンク（RIHD）
- ■ デジタル音声 / 映像信号を 1 本のケーブルで伝送可能な HDMI*6入力 6 系統(フロント 1 系統)、出力 1 系統装備
- ■ ビデオコンバーター搭載〔ビデオ（コンポジット）/D4/ コンポーネント信号を HDMI 出力端子に出力〕
- ■ D4/ コンポーネント映像入力端子 2 系統、出力端子 1 系統装備
- ■ デジタル入力端子として光 2 系統 / 同軸 2 系統装備
- ■ 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむ Music Optimizer*7 機能搭載
- ■ 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- ■ 音声と映像のズレを補正する AV シンクコントロール機能搭載
- ■ 付属の測定用マイクで自動スピーカー（Audyssey 2EQ *8）設定
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる Audyssey Dynamic EQ ™*8 機能搭載
- ■ 音量の大小を即時に調整する Audyssey Dynamic Volume™*8 機能搭載
- ■ iPod や MP3 プレーヤーなどから入力できるフロント PORTABLE 端子装備
- ■ UP-A1 シリーズの iPod ドックから入力できる UNIVERSAL PORT 端子装備
- ■ モニターを見ながら、簡単設定ができる OSD（オンスクリーンディスプレイ）機能搭載
- ■ 他機の操作を可能にするプリプログラム機能搭載（OSD 機能によるコード検索が可能）のリモコン付属

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 米国特許 : 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD Master Audio、DTS Surround Sensation は DTS 社の商標です。©1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

*3 AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*4 Cinema FILTER は、オンキヨー株式会社の商標です。

*5 VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

*6 HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

*7 Music Optimizer は、オンキヨー株式会社の商標です。

*8 Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。Audyssey 2EQ と Audyssey Dynamic EQ、Audyssey Dynamic Volume は Audyssey Laboratories の商標です。

＊ x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。
＊ iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

設定をする（応用編）

本機のリモコンで他の製品を操作する

困ったときは

その他

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。
電源を入れた状態で本体の VCR（ビデオ）/ DVR（DVD レコーダー） ボタンを押したまま、ON（オン）/STANDBY（スタンバイ） ボタンを押してリセットしてください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠ 注意

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という 内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という 禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの天面や底面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

警告

使用上のご注意

■ **本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない**

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ **長時間音がひずんだ状態で使わない**

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ **雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない**

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ **乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない**

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ **電池から漏れ出た液にはさわらない**

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■ **不安定な場所や振動する場所には設置しない**

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ **本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない**

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■ **配線コードに気をつける**

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ **表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する**

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ **電源コードを束ねた状態で使用しない**

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない**

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

⚠注意

■ **長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む**

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ **お手入れの際は電源プラグを抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ **通風孔の温度上昇に注意**

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ **音量を上げすぎない**

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■ **長時間大きな音でヘッドホンを使用しない**

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ **移動時は電源プラグや接続コードをはずす**

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ **本機の上にものを乗せたまま移動しない**

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■ **機器内部の点検について**

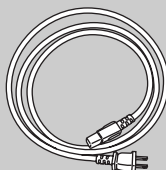
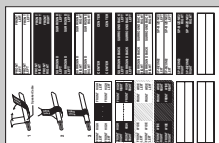
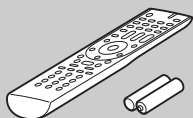
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ **本機のお手入れについて**

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

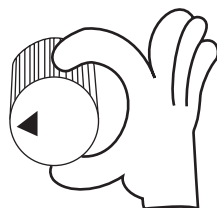
準備する

■ 付属品を確認する

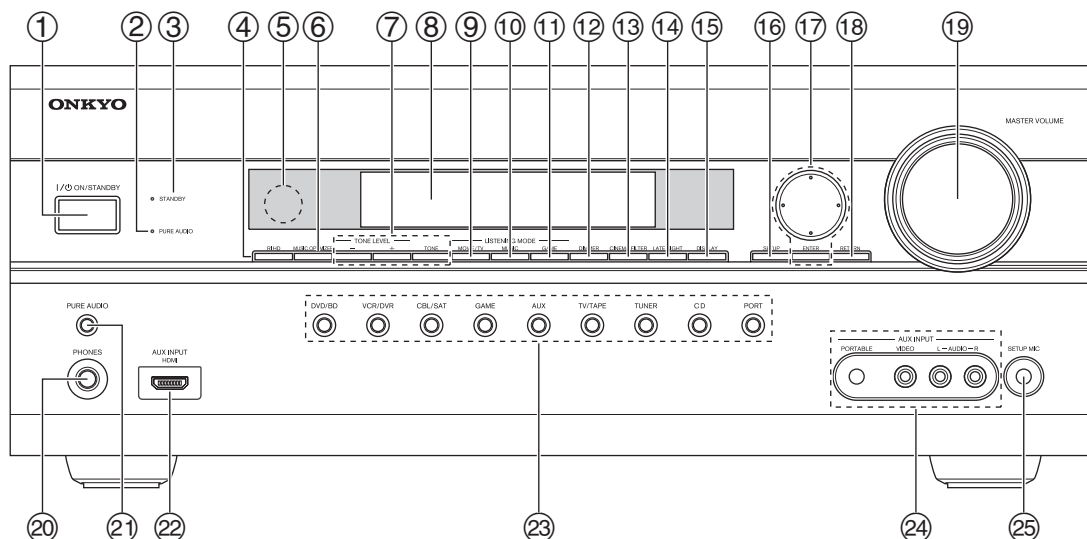
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

- リモコン（RC-740M）…（1）
- 乾電池（単３形、R6）…（2）
- スピーカーコード用ラベル…（1）
- 電源コード…（1）
- 測定用マイク…（1）
- 取扱説明書（本書）…（1）
- 簡単スタートガイド…（1）
- 保証書…（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
- ユーザー登録カード…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **ON/STANDBY ボタン〔35〕**
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **PURE AUDIO インジケーター**
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。

③ **STANDBY インジケーター〔35〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

④ **RIHD ボタン〔19〕**
本機と HDMI 接続した CEC（Consumer Electronics Control）対応機器や RIHD 対応機器との連動をオン / オフします。

⑤ **リモコン受光部〔13〕**
リモコンからの信号を受信します。

⑥ **MUSIC OPTIMIZER ボタン〔71〕**
ミュージックオプティマイザー機能をオン / オフします。

⑦ **TONE ＋ / −ボタン〔48〕**
高音、低音を調整するときに使用します。

⑧ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑨ **MOVIE/TV ボタン〔54〕**
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

⑩ **MUSIC ボタン〔54〕**
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

⑪ **GAME ボタン〔54〕**
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

⑫ **DIMMER ボタン〔47〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑬ **CINEMA FILTER ボタン〔71〕**
シネマフィルター機能をオン / オフします。

⑭ **LATE NIGHT ボタン〔70〕**
レイトナイト機能をオン / オフします。

⑮ **DISPLAY ボタン〔49〕**
表示部の情報を切り換えます。

⑯ **SETUP ボタン**
本機の設定を行います。

⑰ **カーソル ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
設定項目を選択します。ENTER ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑱ **RETURN ボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

⑲ **MASTER VOLUME つまみ〔46〕**
音量を調整します。
音量は基本的に MIN・1・2 … 78・79・MAX の範囲で調整できます。

⑳ **PHONES 端子〔47〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

㉑ **PURE AUDIO ボタン〔54〕**
リスニングモードを「Pure Audio」にします。

㉒ **AUX INPUT HDMI 端子〔20〕**
HD ビデオカメラなどを接続します。

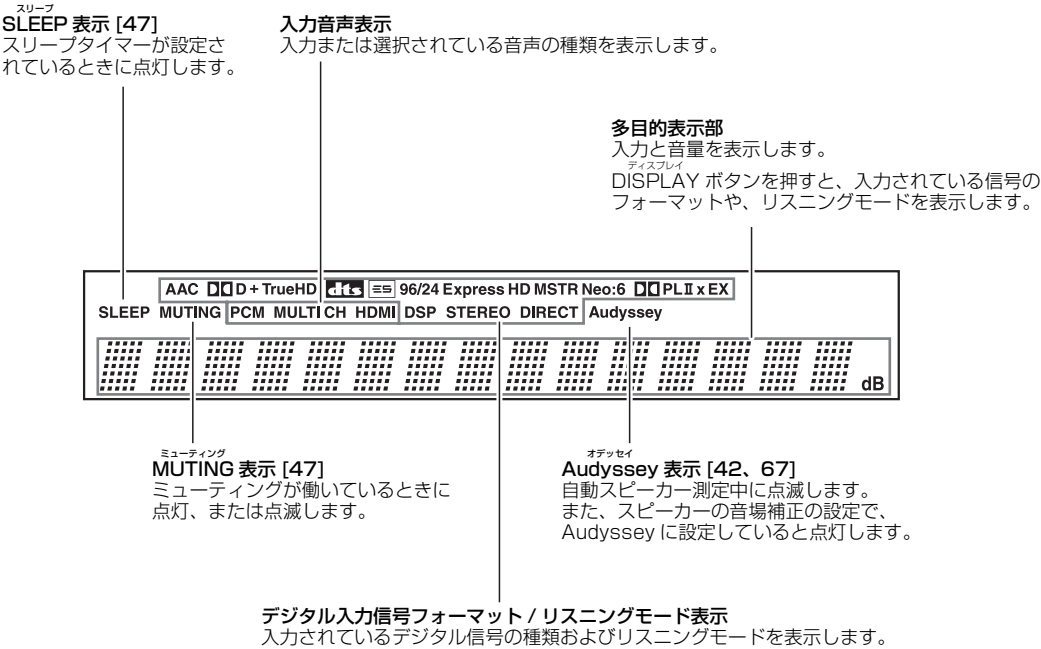
㉓ **INPUT SELECTOR ボタン（DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX、TV/TAPE、TUNER、CD、PORT）〔46〕**
再生する機器を選びます。

㉔ AUX INPUT 端子〔29〕
ビデオカメラなどを接続します。

PORTABLE 端子〔33〕
ポータブルオーディオプレーヤーなどを接続します。

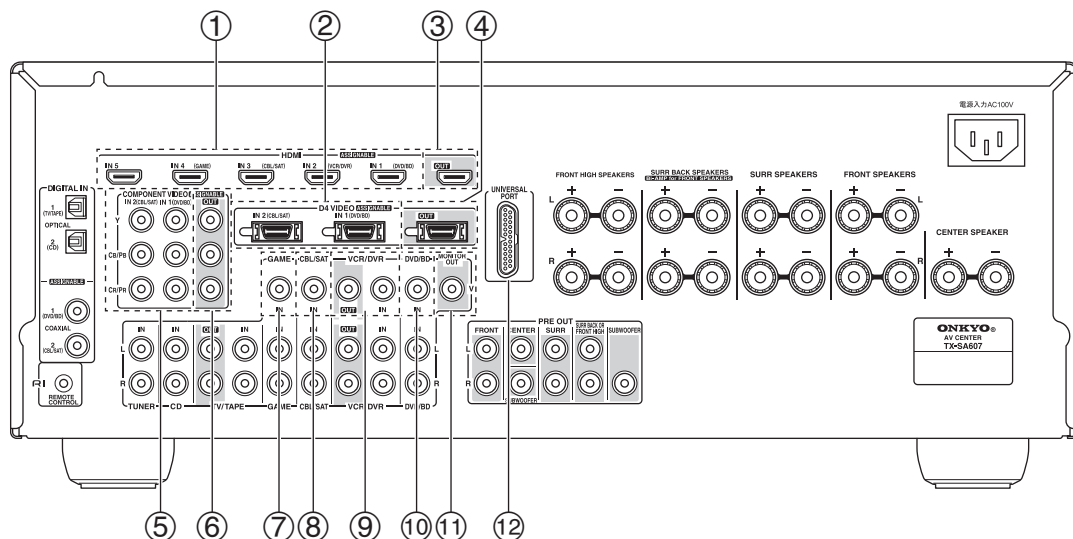
㉕ SETUP MIC 端子〔43〕
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

表示部

〔　〕内のページに主な説明があります。

入力信号表示

表示	入力信号
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
AAC	AAC
DD D+	Dolby Digital Plus
DD TrueHD	Dolby TrueHD
dts Express	DTS Express Audio
dts HD	DTS-HD High Resolution Audio
dts HD MSTR	DTS-HD Master Audio

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① HDMI IN 1/2/3/4/5 端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子。

② D4 VIDEO IN 1/2 端子
接続した機器から D 映像を入力する端子。

③ HDMI OUT 端子
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子。設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

④ D4 VIDEO OUT 端子
本機から D 映像を出力する端子。

⑤ COMPONENT VIDEO IN 1/2 端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。

⑥ COMPONENT VIDEO OUT 端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。

⑦ GAME IN 端子
接続した機器からビデオ映像を入力する端子。

⑧ CBL/SAT IN 端子
ビデオ映像を入力する端子。

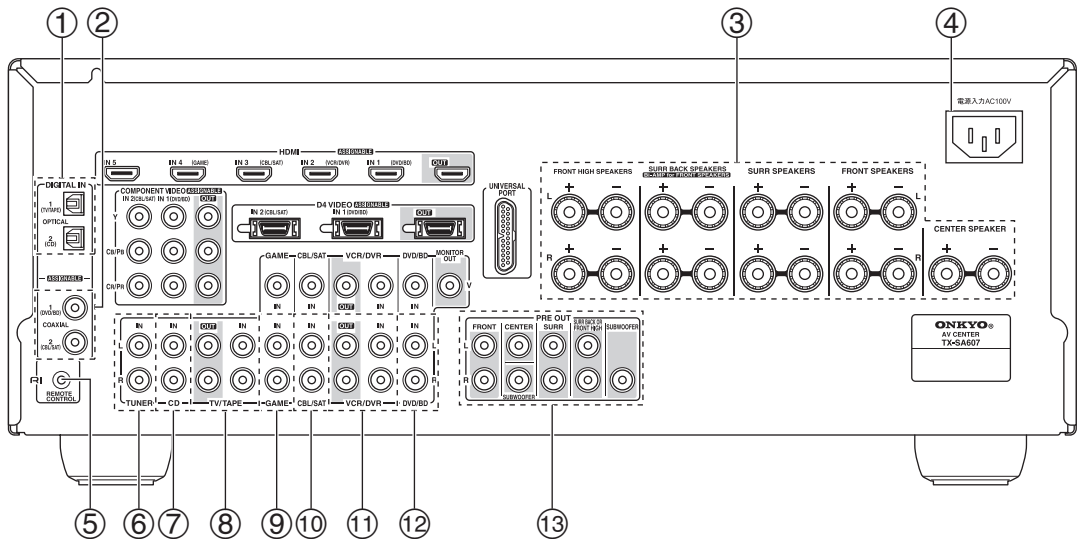
⑨ VCR/DVR IN/OUT 端子
ビデオ映像を入出力する端子。

⑩ DVD/BD IN 端子
接続した DVD/BD プレーヤーからビデオ映像を入力する端子。

⑪ MONITOR OUT 端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像を出力する端子。

⑫ UNIVERSAL PORT 端子
UP-A1 シリーズの iPod ドックなどと接続します。

接続については、15 ～ 35 ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

① DIGITAL IN OPTICAL 1/2 端子
光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

② DIGITAL IN COAXIAL 1/2 端子
同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

③ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

④ 電源入力 AC100V 端子
付属の電源コードを接続します。

⑤ RI REMOTE CONTROL 端子
RI 端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RI ケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥ TUNER IN 端子
チューナーを接続します。

⑦ CD IN 端子
CD プレーヤーを接続します。

⑧ TV/TAPE IN/OUT 端子
テープデッキや MD レコーダーなどの録音機器およびテレビなどの音声出力端子を接続します。

⑨ GAME IN 端子
ゲーム機の音声出力端子と接続します。

⑩ CBL/SAT IN 端子
ケーブルテレビチューナーや衛星放送チューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑪ VCR/DVR IN/OUT 端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

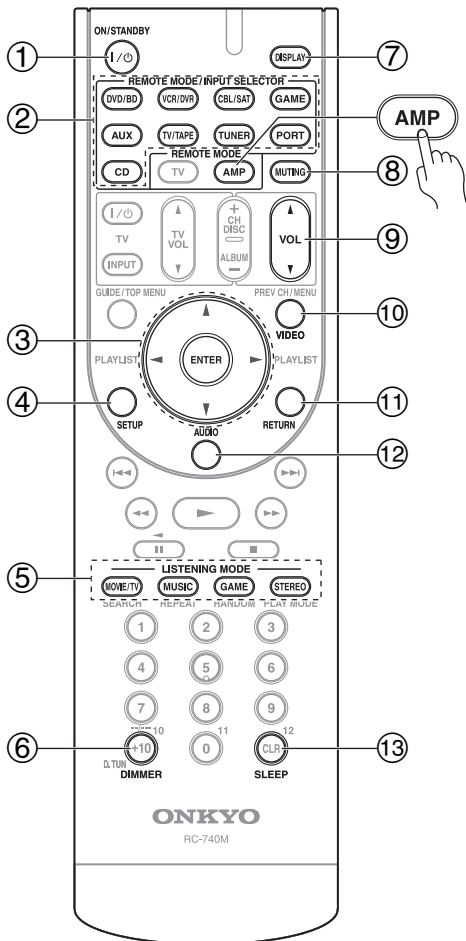
⑫ DVD/BD IN 端子
DVD/BD プレーヤーなどの音声出力端子と接続します。

⑬ PRE OUT 端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。
2 つの SUBWOOFER PRE OUT 端子からは同じ信号が出力されます。

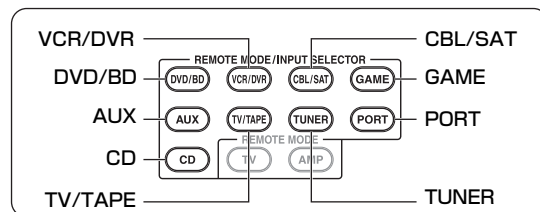
接続については、15 ～ 35 ページをご覧ください。

リモコン（RC-740M）

AMP モード

本機を操作するときは、はじめに AMP ボタンを押して、AMP モードにしてください。
また、リモコンでお手持ちの DVD/BD プレーヤーや CD プレーヤーなどの AV 機器も操作することができます。詳しくは 83 ～ 97 ページをご覧ください。

〔　〕内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① ON/STANDBY ボタン〔35〕
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② REMOTE MODE/INPUT SELECTOR ボタン〔46〕
モードを切り換えて、再生する機器を選びます。

③ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
設定中に、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

④ SETUP ボタン
表示部に設定画面を表示させます。

⑤ LISTENING MODE ボタン〔54〕
リスニングモードを切り換えます。

⑥ DIMMER ボタン〔47〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑦ DISPLAY ボタン〔49〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑧ MUTING ボタン*1〔47〕
音を一時的に小さくします。

⑨ VOL ▲/▼ ボタン*1〔46〕
音量を調節します。

⑩ VIDEO ボタン〔81〕
ビデオの設定を切り替えます。

⑪ RETURN ボタン
設定中に、表示を 1 つ前に戻します。

⑫ AUDIO ボタン〔70〕
音声の設定に使用します。

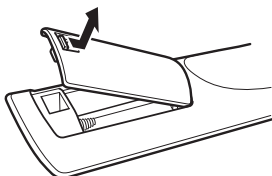
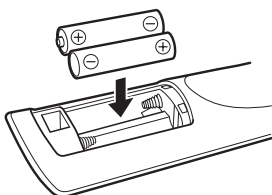
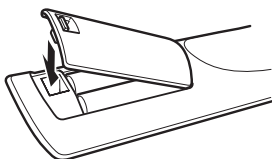
ご注意

「Audio TV Out」を「On」に設定している場合は、使用できません。（➔78 ページ）

⑬ SLEEP ボタン〔47〕
スリープタイマーを設定します。

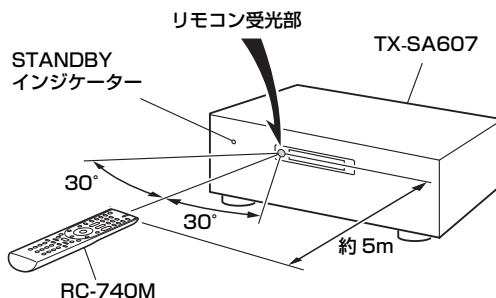
*1 ⑧ ⑨は、AMP モード以外の REMOTE MODE ボタンを選択しているときも使用できます。（TV モード時は除く）

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 2 個をプラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンコードを登録して、他の製品を操作したいとき（➔83 ページ）、RI 接続をせずにオンキヨー製品を操作したいときは、他の製品に向けてリモコンを操作してください。
- RI 接続されたオンキヨー製品もしくは RIHD 接続された RIHD 対応製品を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル再生、またはオンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2 つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2 チャンネル再生)
3 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3 チャンネルサラウンド)
4 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4 チャンネルサラウンド)
5 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5 チャンネルサラウンド)
6 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6 チャンネルサラウンド)
7 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーまたは左右フロントハイスピーカーとして使用します。(7 チャンネルサラウンド)
8 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、左右フロントハイスピーカーとして使用します。(フロントハイスピーカーとサラウンドバックスピーカーは同時には音がでません)
9 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカー、左右フロントハイスピーカーとして使用します。(フロントハイスピーカーとサラウンドバックスピーカーは同時には音がでません)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。また、本機はパワーアンプ内蔵のサブウーファーを2つの SUBWOOFER PRE OUT 端子にそれぞれ接続することができます。

• 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(➔42 ページ)

接続をする

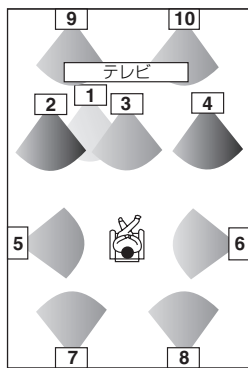
スピーカーを接続する

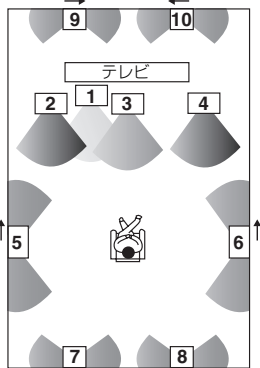
サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーの配置について

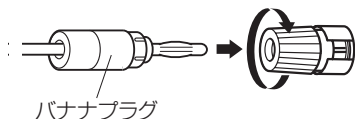
サラウンドバックスピーカーは、Dolby EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discreteなどのリスニングモードを楽しむときに必要です。
フロントハイスピーカーは、Dolby Pro Logic IIz Height のリスニングモードを楽しむときに必要です。

設置例 1 は、一般的なスピーカーを設置した場合です。設置例 2 は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2 つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。ダイポール型スピーカーでは位相 * を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*** 位相**：正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス⊕、マイナス⊖の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例 1

設置例 2

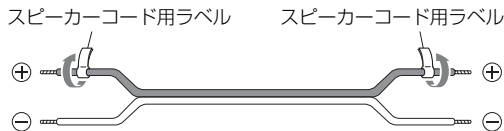
1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー
9 左フロントハイスピーカー
10 右フロントハイスピーカー

バナナプラグの使用について

バナナプラグを使用する場合、スピーカー端子を締めてからバナナプラグを挿入してください。

ご注意

- スピーカーコードの芯線をスピーカー端子のバナナプラグ用の穴にそのまま挿入しないでください。

スピーカーコード用ラベルの使いかた

付属のスピーカーコード用ラベルを、お持ちのスピーカーコード両端のプラスに貼ると識別が簡単になります。

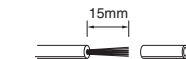
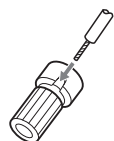
スピーカーコード用ラベル　スピーカーコード用ラベル

- **左フロント**：**白** 左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
- **右フロント**：**赤** 右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
- **センター**：**緑** センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
- **左サラウンド**：**青** 左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
- **右サラウンド**：**灰** 右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
- **左サラウンドバック**：**茶** 左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
- **右サラウンドバック**：**ベージュ** 右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る
- **左フロントハイ**：**白** 左フロントハイスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
- **右フロントハイ**：**赤** 右フロントハイスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子に、ラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とを、ラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

① スピーカーコードの被覆を 15mm カットする

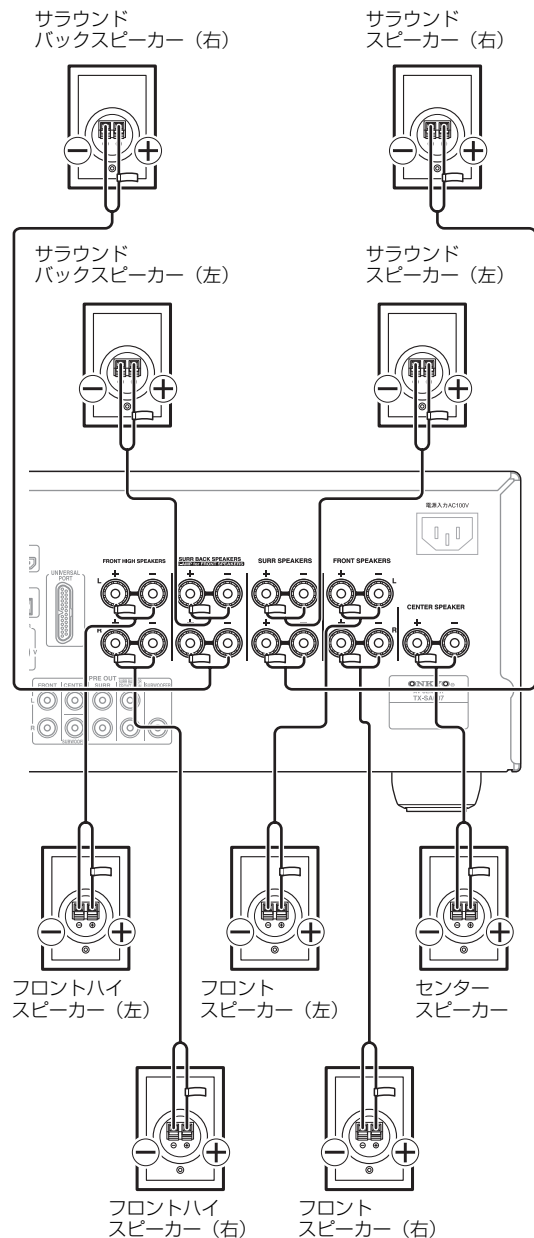
② 芯線の先端をしっかりとよじる

③ ねじをゆるめる

④ 芯線を差し込む

⑤ ねじを締め付ける

ご注意

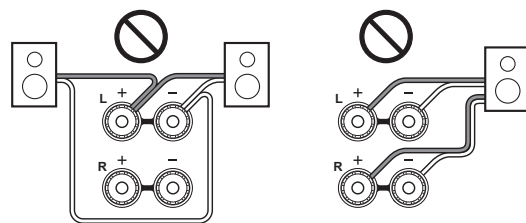
- 芯線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

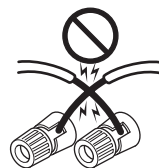
スピーカーの配置については（「ホームシアターとは」（➔14 ページ）および「サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーの配置について」（➔15 ページ）をご覧ください。

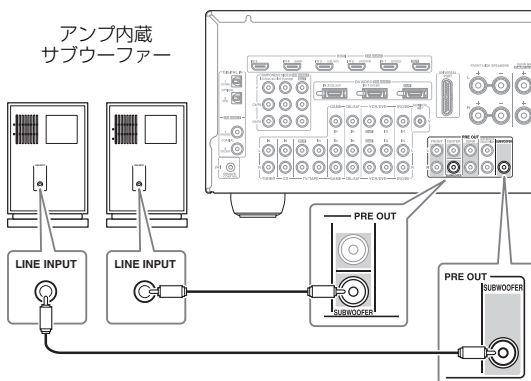
本機にはインピーダンスが 4 Ω ～ 16Ω のスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが 4Ω 以上 6Ω 未満のスピーカーを 1 台でも接続するときは、40 ページで「Speaker Impedance」を 4ohms に設定してください。

サラウンドバックスピーカーを 1 つだけ使用する場合は、SURR BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1 ch の場合は、FRONT SPEAKERS （L/R)、CENTER SPEAKERS、SURR SPEAKERS（L/R）端子に接続してください。

ご注意

- プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。
  故障の原因になります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線のプラス ⊕ とマイナス ⊖ を絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを SUBWOOFER PRE OUT 端子に接続します。最大２つのパワーアンプ内蔵のサブウーファーを接続して使用することができます。

！ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

バイアンプ接続をする

FRONT SPEAKERS（L/R）端子と SURR BACK SPEAKERS（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、高音用と低音用の 2 組の入力端子のあるバイアンプ接続対応のスピーカーに接続して使用することができます。

- バイアンプ接続では最大 5.1ch 再生になります。
- バイアンプ接続では、FRONT SPEAKERS（L/R）端子へフロントスピーカーの低音用端子を接続します。また、SURR BACK SPEAKERS（L/R）端子へフロントスピーカーの高音用端子を接続します。
- 以下の手順でバイアンプ接続をしたあとに、「Speakers Type」の設定を「Bi-Amp」にする必要があります。（➔40 ページ）

ご注意

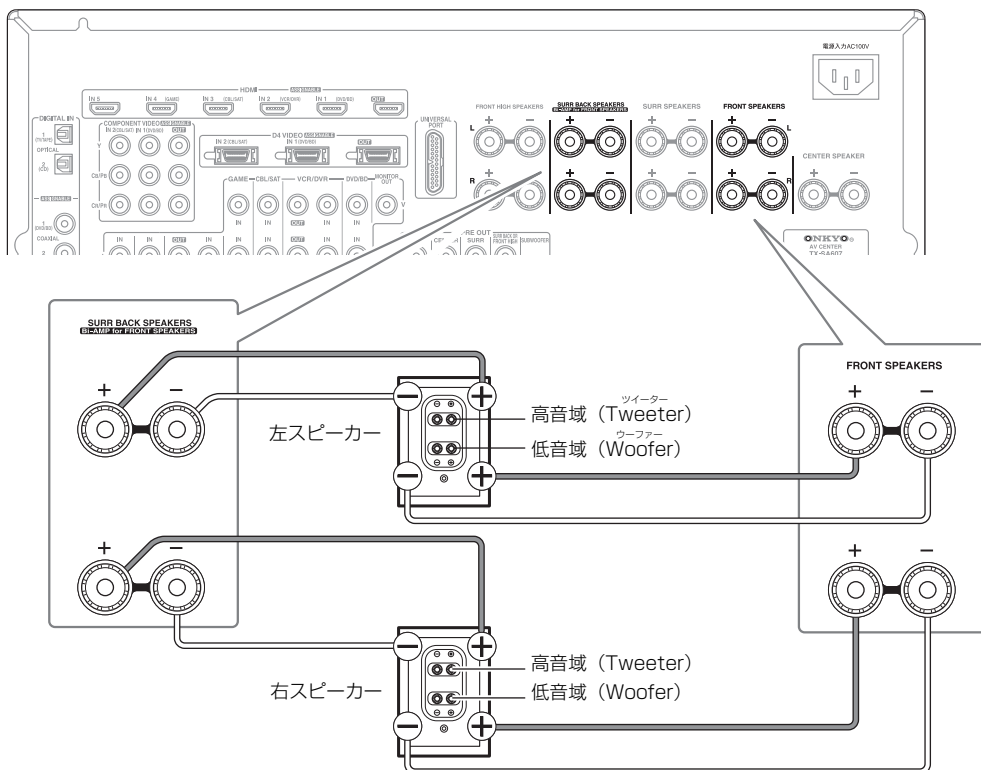
- バイアンプ接続をする場合は、高音用端子と低音用端子をつないでいるショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプに対応したスピーカーのみ使用可能です。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプスピーカーを接続する

1 本機の FRONT SPEAKERS（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT SPEAKERS（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

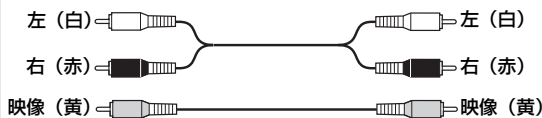
2 本機の SURR BACK SPEAKERS（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK SPEAKERS（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

3 本機の FRONT SPEAKERS（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT SPEAKERS（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

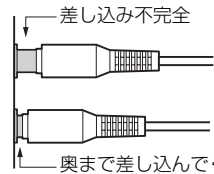
4 本機の SURR BACK SPEAKERS（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK SPEAKERS（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（R の表示）、白いコネクターを左チャンネル（L の表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（V の表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
  接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

差し込み不完全
奥まで差し込んでください

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像 / 音声ケーブルと端子の種類について

ケーブルと端子の種類				
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像と音声	HDMI ケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機は HDMI Version 1.3a 規格に準拠しています。
映像	コンポーネントビデオコード		Y CB/PB CR/PR	画質は D 端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D 端子用接続コード		D4	画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は COAXIAL と同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は OPTICAL と同レベルです。
音声	オーディオ用ピンコード		L R	アナログ音声を伝送します。
音声	ステレオ用ミニピンコード		PORTABLE	アナログ音声を伝送します。 ポータブル機器接続用です。

HDMI 端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ / プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。

従来の DVI（Digital Visual Interface）[*1] 規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMI ケーブルを 1 本接続するだけで、HDMI 端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

> 本機の HDMI インターフェースは、以下の規格に基づいています。
> High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.3a
> x.v.Color、DeepColor、リップシンク、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DSD、およびマルチチャンネル PCM

対応音声フォーマット

- 2 チャンネルリニア PCM（32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニア PCM（最大 7.1ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS エクスプレス、DTS-HD マスターオーディオ、DSD、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットの HDMI 出力に対応している必要があります。

オンキヨーRIHD について

RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

- 本体の RIHD ボタンを押して、RIHD 機能を ON に切り換えます。
- リモコン操作については、本機のリモコンで他の製品を操作する「DVD/BD プレーヤー、DVD レコーダーを操作する」（➔91 ページ）、「テレビを操作する」（➔90 ページ）をご覧ください。

ご注意

連動機能が適切に働くように、HDMI 端子には以下の台数より多くの RIHD 対応機器を接続しないでください。

- DVD/BD プレーヤー：最大 3 台
- DVD/BD レコーダー：最大 3 台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大 4 台

本機に HDMI を介して他の AV センターを接続しないでください。RIHD 対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）[*2] に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。

[*1] DVI（Digital Visual Interface）：DDWG[*3] が、1999 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

[*2] HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intel が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要です。

[*3] DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続をする（映像機器を接続する）

接続のしかた

HDMI 接続では、HDMI ケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。

ステップ 1： HDMI ケーブルを使って本機の HDMI 端子と DVD/BD プレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどの HDMI 端子と接続してください。

ステップ 2： 接続した HDMI IN 端子を 37 ページの「HDMI 入力端子の設定」で割り当ててください。

■ 映像信号の流れ

HDMI IN 端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT 端子からのみ出力されます。また、VIDEO、D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO 端子から入力した映像信号は、HDMI OUT 端子から出力されます。詳しくは「映像接続のしくみ」（➔21 ページ）をご覧ください。

■ 音声信号の流れ

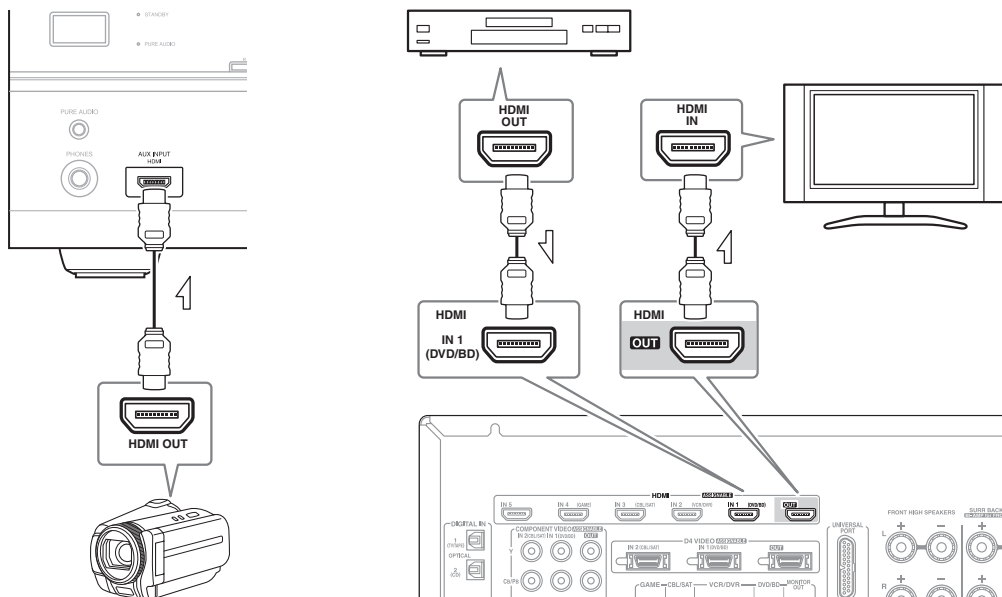
HDMI IN 端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力されます。

ご注意

- HDMI 機器の音声を本機で聞く場合は、テレビに HDMI 機器の映像が映る状態にしておいてください。（本機が接続されている HDMI 入力をテレビ側で選んでください）テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

！ヒント

- HDMI IN 端子から入力した音声信号を、HDMI OUT 端子から出力してテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、78 ページの「Audio TV Out」設定を「On」にしてください。また、DVD プレーヤーなどの設定で、HDMI に出力する設定を 2 チャンネル PCM になるように設定してください。

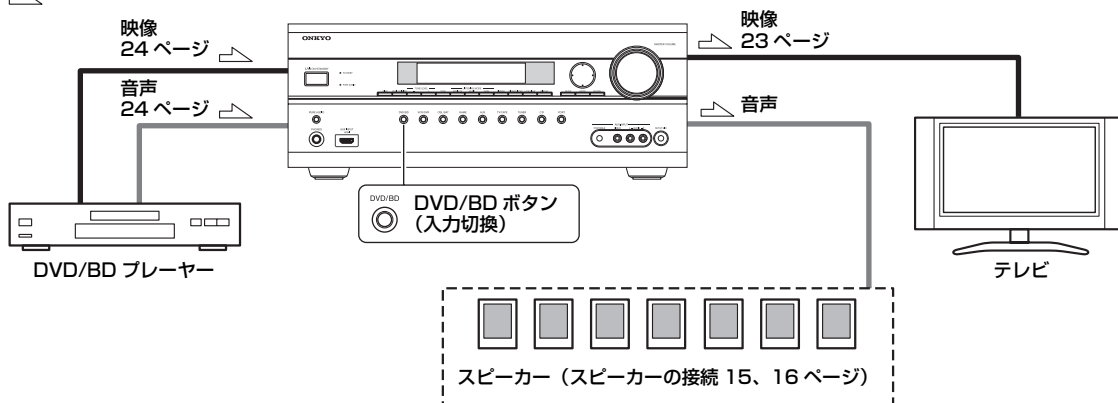
信号の流れ

ご注意

- HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通して HDMI 接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください。（テレビ側の入力設定も確認してください。）テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- 「Audio TV Out」（➔78 ページ）または「TV Control」（➔79 ページ）の設定が「On」のとき、テレビのスピーカーから音声を出していると、本機のボリュームを上げたとき本機に接続したスピーカーからも音声が出ます。
  本機に接続したスピーカーから音声が出ないようにするには、本機の設定またはテレビの設定を変更してください。
  設定を変更しない場合は、本機のボリュームを下げてください。
- HDMI 音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI 接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

接続をする（映像機器を接続する）

映像 / 音声接続のしくみ

DVD/BD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。
本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

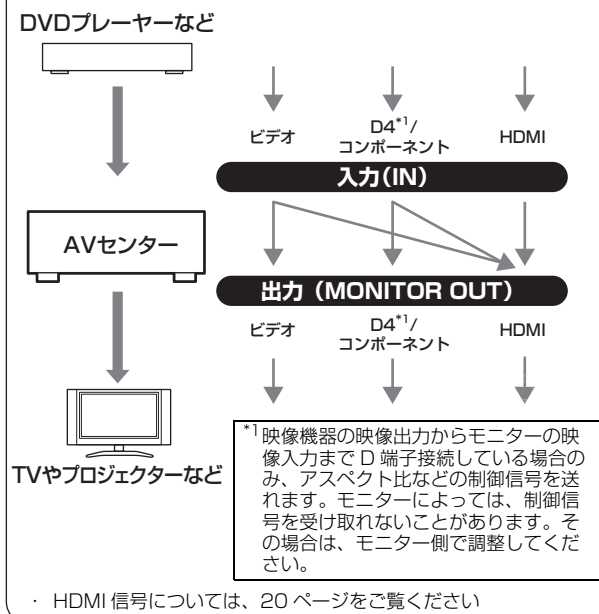
例：DVD/BD プレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機には 4 種類（ビデオ（コンポジット）、D4、コンポーネント、HDMI）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。ビデオ（コンポジット）、D4/ コンポーネント入力端子から入力された映像信号は、各々の出力端子から出力されます。同時にアップコンバージョンされて HDMI 出力端子から出力されます。
HDMI または D4/ コンポーネント入力端子に機器を接続したときは、各入力を割り当てるための設定を行ってください。（➔37、38 ページ）

！ヒント

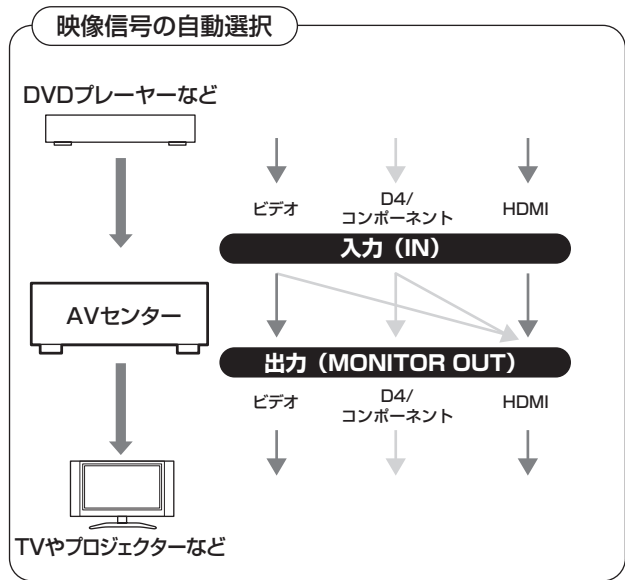
- VIDEO IN 端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、HDMI 入力端子の設定（➔37 ページ）とコンポーネントビデオ端子の設定（➔38 ページ）を両方とも「- - - - -」にする必要があります。
- D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子は内部で並列になるように設計されています。1 つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO IN 1 端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO IN1 端子には何も接続しないでください。

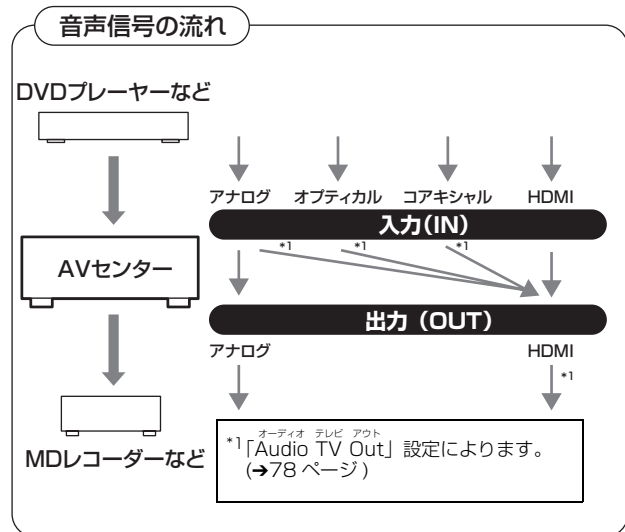
ご注意

- OSD セットアップメニューがテレビ画面に表示されるのは、本機と HDMI 接続しているテレビのみです。本機をテレビのコンポーネントビデオ /D4 ビデオ、ビデオ（コンポジット）端子接続している場合は、本機表示部を見ながら操作してください。

■ 映像信号の自動選択について

１つの入力切換へ複数の映像信号が入力されていると、次の優先順で出力されます：HDMI、D4/コンポーネント、ビデオ（コンポジット）。
ただし D4/ コンポーネントビデオ端子について、入力端子を割り当てた場合は、信号が入力されていなくても優先として扱われます。入力端子を割り当てていない場合は、信号が入力されていないものとして扱われます。（➔38 ページ）

例として、右図のように HDMI IN（イン）端子と VIDEO（ビデオ） IN 端子から映像信号が入力された場合は、アップコンバートをした VIDEO IN 端子からの映像信号は出力されずに、HDMI IN 端子からの映像が自動的に選ばれて、HDMI OUT（アウト）端子から出力されます。
VIDEO IN 端子からの映像信号は、優先順には関係なく VIDEO OUT 端子から出力されます。

ご注意
- OSD セットアップメニューがテレビ画面に表示されるのは、本機と HDMI 接続しているテレビのみです。本機をテレビのコンポーネントビデオ /D4 ビデオ、ビデオ（コンポジット）端子接続している場合は、本機表示部を見ながら操作してください。

音声接続のしくみ

本機はアナログ、デジタル（光／同軸）、HDMI の音声信号入力に対応しています。
本機はデジタル入力信号を変換してアナログ出力することはできません。

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

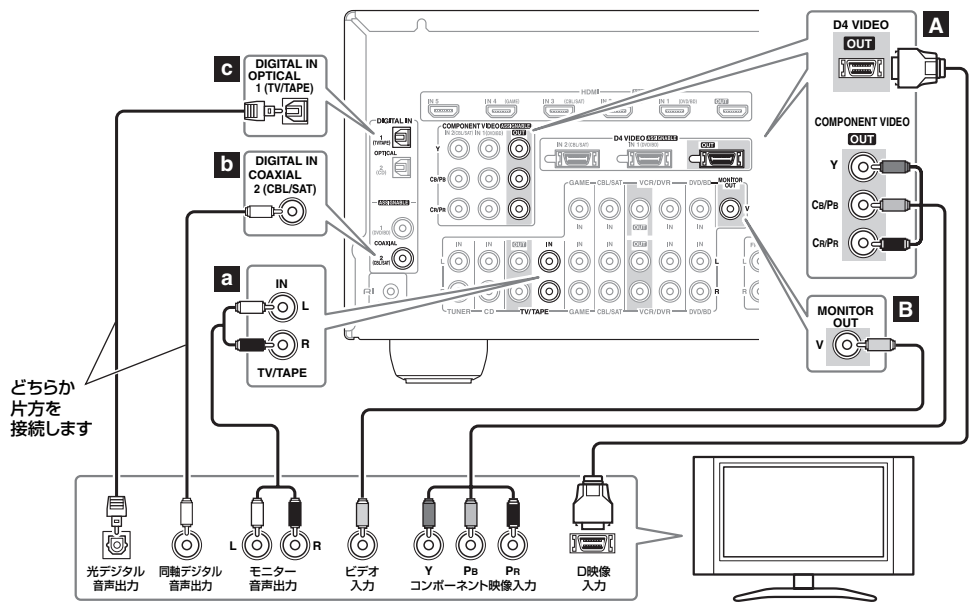
！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

• テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。

地上デジタルや BS デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT 端子 または COMPONENT VIDEO OUT 端子	➡	D 映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	TV/TAPE IN L/R 端子	⬅	モニター音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル音声出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル音声出力端子	

！ヒント

• テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

DVD/BD プレーヤーと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B の接続から 1 つ選んで DVD/BD プレーヤーと映像接続をしてください。

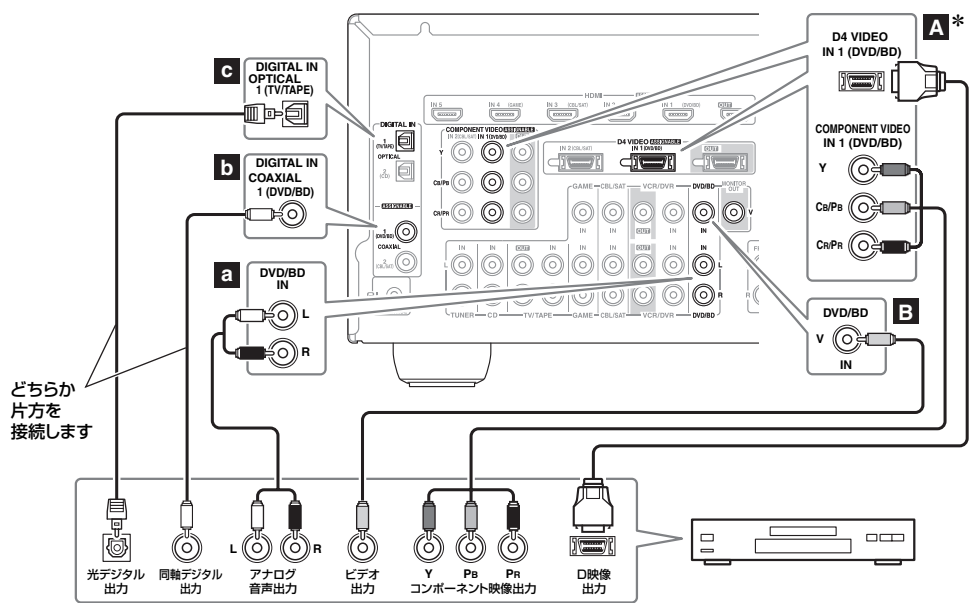
！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで DVD/BD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVD/BD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付オンキヨー製 DVD/BD プレーヤーと連動させるときに必要です。（➔34 ページ）

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ c の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	DVD/BD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 1（DVD/BD）端子 または COMPONENT VIDEO IN 1（DVD/BD）端子	⬅	D 映像入力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD/BD IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD/BD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1（DVD/BD）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル出力端子	

* D4 VIDEO IN 1（DVD/BD）端子と COMPONENT VIDEO IN 1（DVD/BD）端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（➔21 ページ）

ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと接続する（再生編）

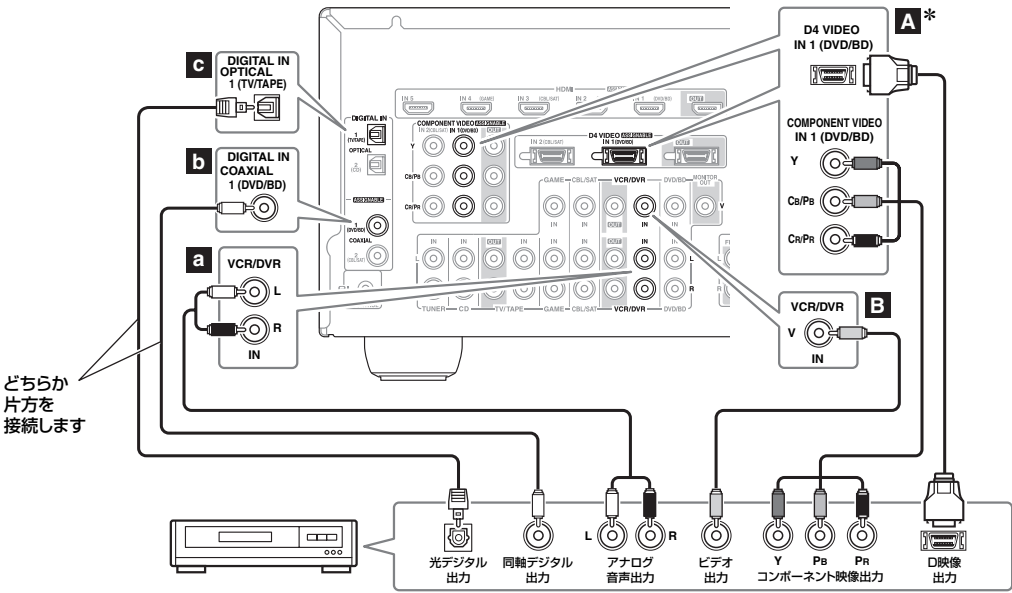
ステップ 1：映像接続をする

A、B の接続から 1 つ選んでビデオデッキや DVD/BD レコーダーと映像接続をしてください。（ A の接続をした場合、コンポーネントビデオ端子の設定が必要です。➔38 ページ）

！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキや DVD/BD レコーダーと音声接続をしてください。

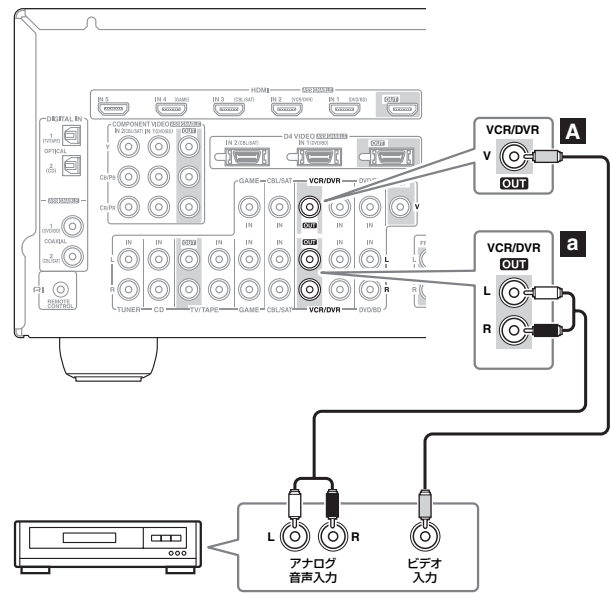
基本的な接続は a の接続をします。
ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ b または c の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD/BD レコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN 1（DVD/BD）端子 または COMPONENT VIDEO IN 1（DVD/BD）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VCR/DVR IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VCR/DVR IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1（DVD/BD）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル出力端子	

* D4 VIDEO IN 1 端子と COMPONENT VIDEO IN 1 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（➔21 ページ）

ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ 1：ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと A の映像接続をしてください。

！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：a の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD/BD レコーダー	画質
A	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子	

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。
- リスニングモードが「Pure Audio（ピュア オーディオ）」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。
- アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。

衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと接続する

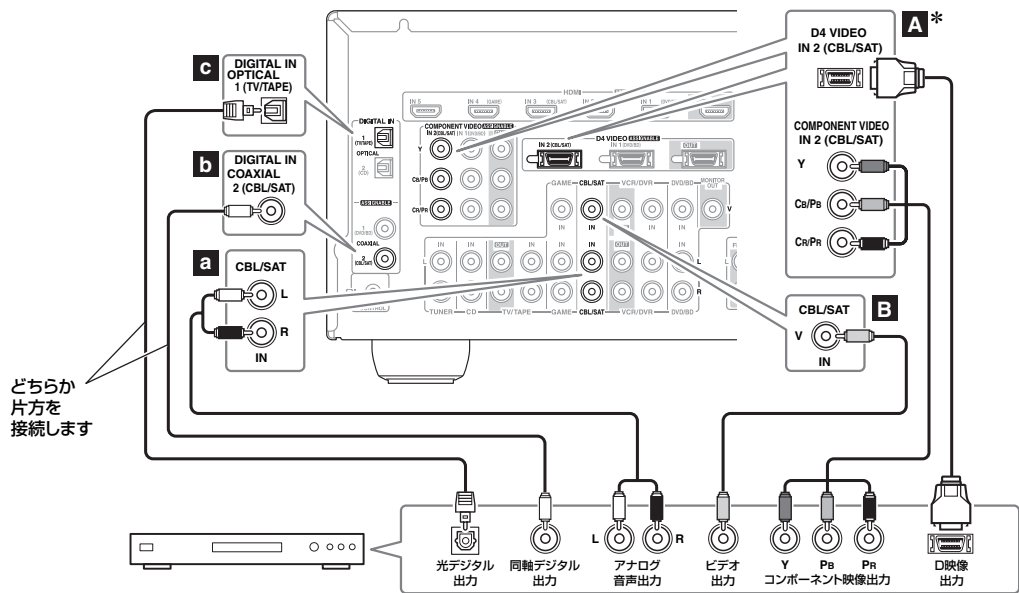
ステップ 1：映像接続をする

A、B の接続から 1 つ選んで衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと映像接続をしてください。

！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。
AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ c の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子 または COMPONENT VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	CBL/SAT IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	CBL/SAT IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル出力端子	

ご注意

- 本機に LD プレーヤーの AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1ch ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

* D4 VIDEO IN 2 端子と COMPONENT VIDEO IN 2 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（➔21 ページ）

ゲーム機と接続する

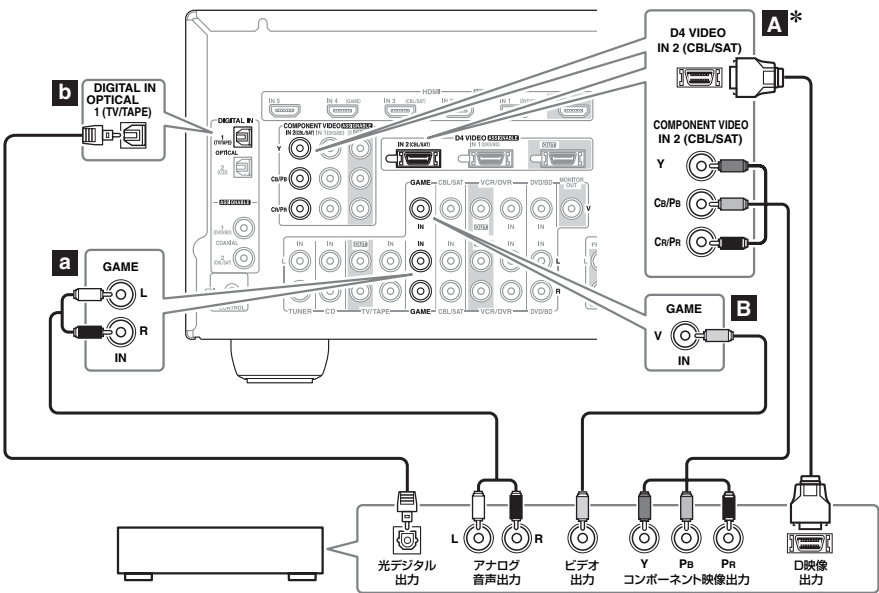
ステップ 1：映像接続をする

A、B の接続から 1 つ選んでゲーム機と映像接続をしてください。
（ A の接続をした場合、コンポーネントビデオ端子の設定が必要です。➔38 ページ）

！ヒント 21 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b の接続から必要な接続を選んでゲーム機と音声接続をしてください。

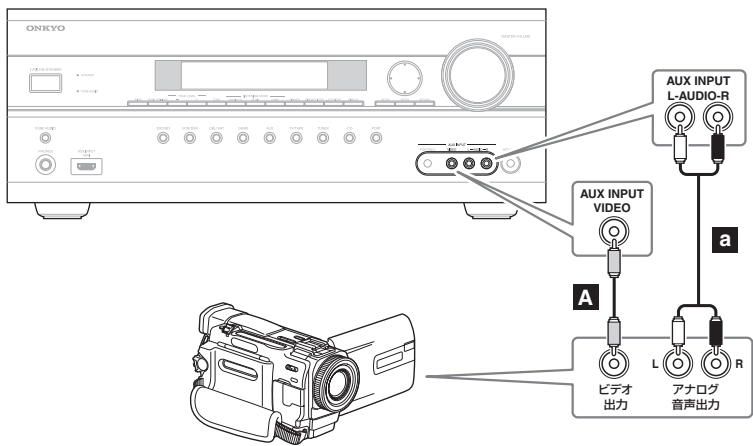
基本的な接続は a の接続をします。
AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b の接続をしてください。（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	ゲーム機	画質
A	D4 VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子 または COMPONENT VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	GAME IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	GAME IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル出力端子	

* D4 VIDEO IN 2 端子と COMPONENT VIDEO IN 2 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（➔21 ページ）

接続をする（映像機器を接続する）

ビデオカメラと接続する

ステップ 1：**A** の映像接続をしてください。

ステップ 2：**a** の音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ	画質
A	AUX INPUT VIDEO 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	AUX INPUT AUDIO L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	

CD プレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

■ CD プレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ 1：音声接続をする

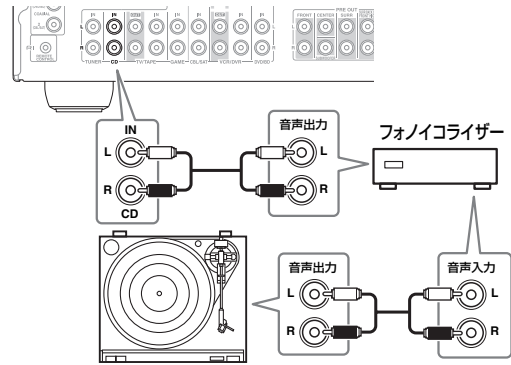
a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

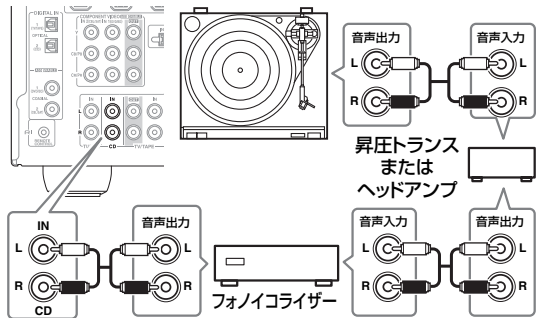
基本的な接続は a
- CD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付きオンキヨー製 CD プレーヤーと連動させるときに必要です。（➔34 ページ）

CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。
（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー / レコードプレーヤー
a	CD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL 2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2（CD）端子	⬅	光デジタル出力端子

■ レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いている L/R IN 端子を接続します。

■ MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。
フォノイコライザーを本機の空いている L/R IN 端子に接続します。

詳しい説明は、レコードプレーヤーやフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください。

カセットデッキ、MD レコーダー、CD レコーダーと接続する

ステップ 1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された信号は、アナログ出力されません。
- RI 端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（➔34 ページ）

CD の PCM や DTS 記号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。
（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔39 ページ）

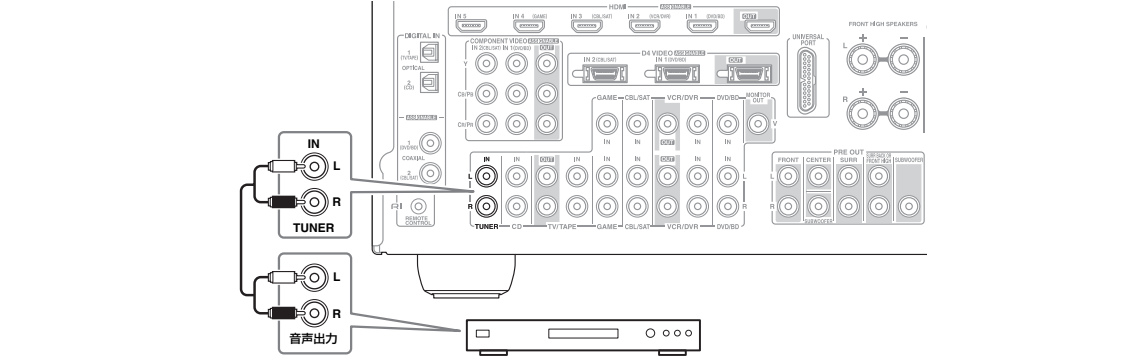
接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TV/TAPE IN L/R 端子 TV/TAPE OUT L/R 端子	⬅ ➡	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL 2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 1（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル出力端子

チューナーを接続する

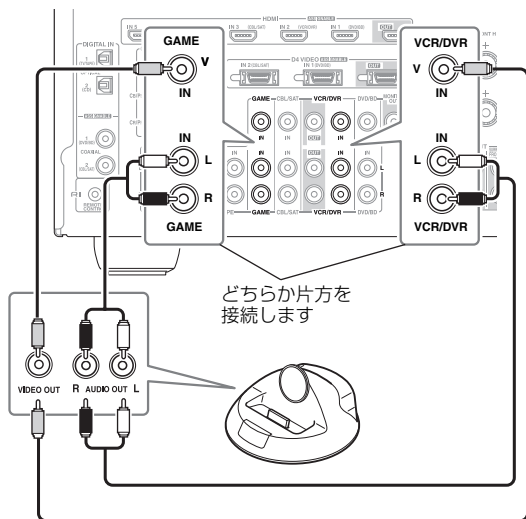
ステップ 1：音声接続をする

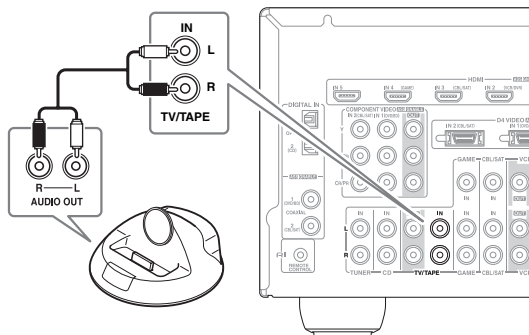
オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機の TUNER IN L/R 端子を接続します。

RI ドックを接続する

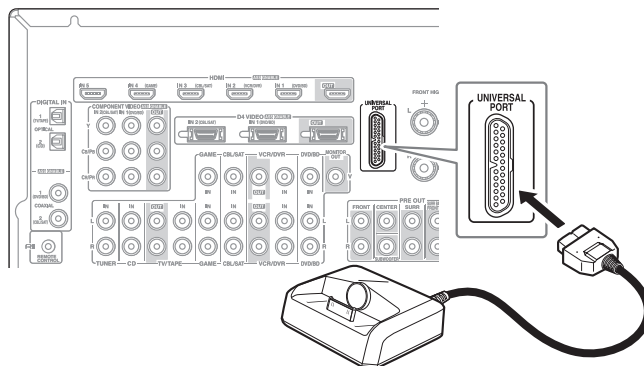
ご注意

- RI ドックで使用できる iPod についてなどの詳細は、RI ドックの取扱説明書をご覧ください。

ご使用の iPod がビデオ対応機種の場合

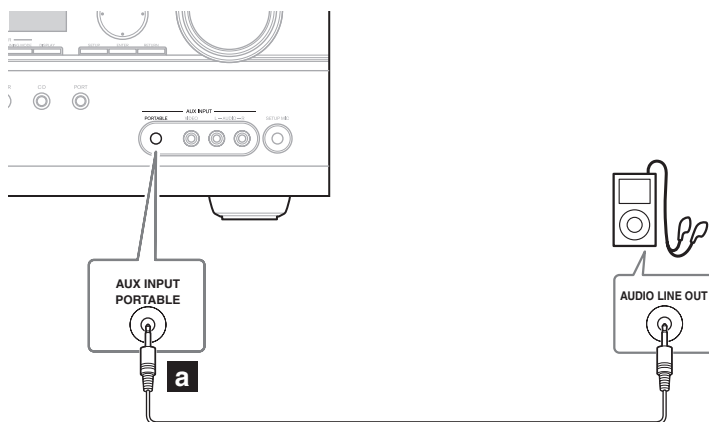
オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME または VCR/DVR IN L/R 端子を接続します。ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の GAME または VCR/DVR IN V 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドックの例です）

ご使用の iPod がビデオに対応していない機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の TV/TAPE IN L/R 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1XP の例です）

- 本機付属のリモコンで操作する前に、まず RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔86 ページ）
- RI ドック側で、RI MODE スイッチを HDD（あるいは HDD/DOCK）に設定してください。
- 本機の入力表示を DOCK にしてください。（➔41 ページ）
- RI ケーブルで RI ドックと本機を接続することも忘れずに行ってください。
- RI ドックに付属の取扱説明書もご覧ください。

UP-A1 シリーズの iPod ドックと接続する

ご注意

- UP-A1 シリーズの iPod ドックを UNIVERSAL PORT 端子に接続し、iPod をセットすると、待機時の消費電力が少し増加します。

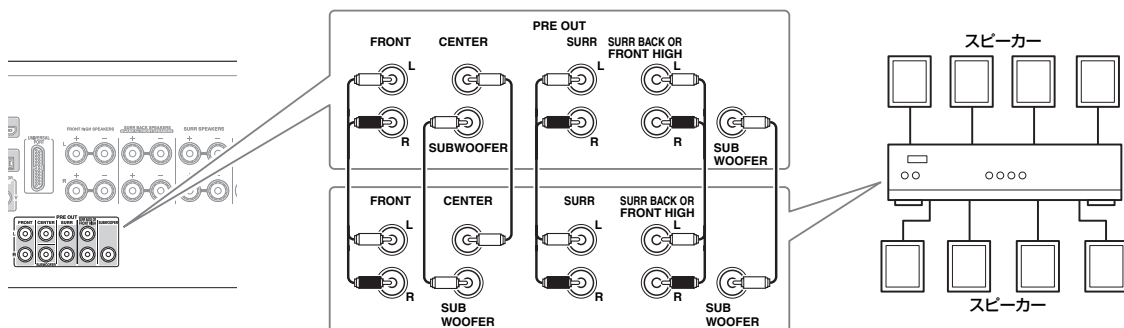
ポータブルオーディオプレーヤーと接続する

ステップ 1：a の音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ポータブルオーディオプレーヤー
a	AUX INPUT PORTABLE 端子	←	アナログ音声出力端子

ご注意

- AUX INPUT（インプット）L/R 端子と AUX INPUT PORTABLE（ポータブル）端子を同時に接続すると、AUX INPUT PORTABLE 端子からの音声が優先されます。

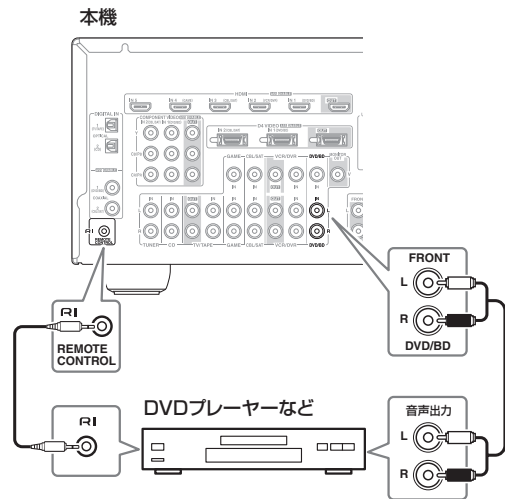
パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機の PRE OUT 端子を接続します。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI 端子付きのオンキヨー製品に RI ケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RI ケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。24、30、31、32 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ステップ 1：RI ケーブルを接続する
本機と、本機に接続したオンキヨー製品の RI 端子を、RI ケーブルで正しく接続します。

ステップ 2：ピンコードを接続する
本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ 3：入力表示を切り換える
RI ドックを本機に接続した場合は、入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（➔41 ページ）

オートパワーオン機能
本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能
RI 接続されている機器の再生を始めると、本機の入力が自動的に切り換わります。

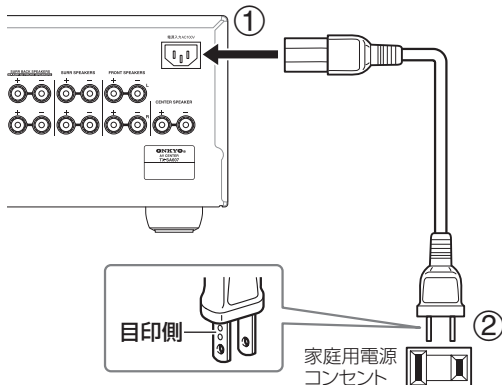
リモコン操作機能
本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI 接続した機器を操作することができます。（➔83 ページ）
DVD プレーヤー、CD プレーヤー、カセットデッキ、チューナー、RI ドックは、RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔86 ページ）

ご注意
- 製品によっては RI 接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器の CD ダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RI ケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI 端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

電源コードを接続する

ステップ 1：付属の電源コードを本機の電源入力 AC100V 端子に接続する

ステップ 2：電源コードをコンセントに接続する

電源コードを接続する前に

- すべての接続が完了していることを確認してください。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。

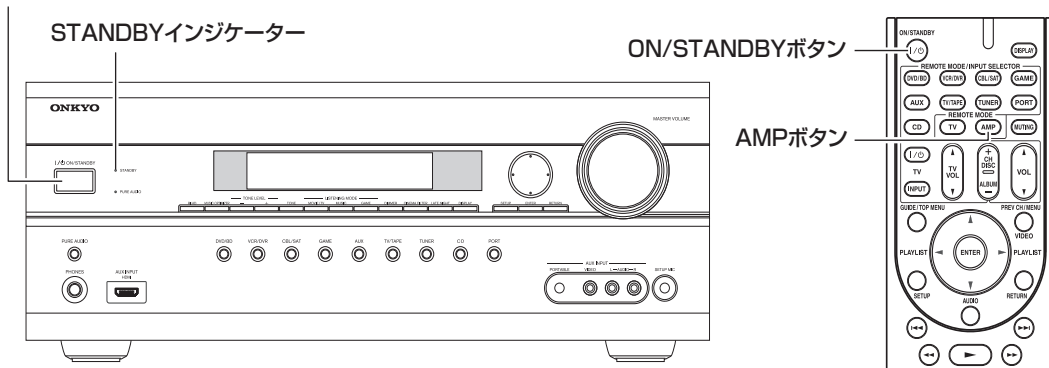
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

より良い音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

電源を入れる

本体
I/⏻ ON/STANDBY
または
リモコン
AMP
ON/STANDBY

本体の ON/STANDBY ボタン、またはリモコンの AMP ボタンを押し、ON/STANDBY ボタンを押す

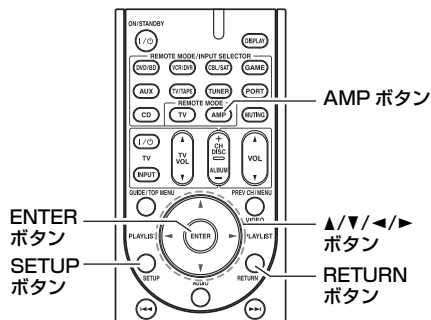
STANDBY インジケーターが消え、表示部が点灯します。

スタンバイ状態に戻すには

本体またはリモコンの ON/STANDBY ボタンを押します。

初期設定をする

OSD セットアップメニューを使用する

OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行います。

テレビ画面へ表示されるのは、本機と HDMI 接続しているテレビのみです。本機とテレビをコンポーネントビデオ /D4 ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。
設定画面が表示されます。

2

▲/▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。
SETUP ボタンを押すと、設定を終了します。
RETURN（リターン） ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

本機表示部で設定する

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す

メインメニュー項目が表示されます。

1. Input Assign

2

▲/▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー項目が表示されます。
SETUP ボタンを押すと、設定を終了します。
RETURN ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニューの本機での表示について

OSD セットアップメニューで選択された項目は本機表示部に表示されます。

セットアップメニュー

Menu
1. Input Assign
2. Speaker Setup
3. Audio Adjust
4. Source Setup
5. Listening Mode Preset
6. Miscellaneous
7. Hardware Setup
8. Remote Controller Setup
9. Lock Setup

表示部

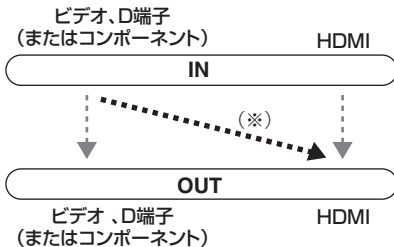
1. Input Assign

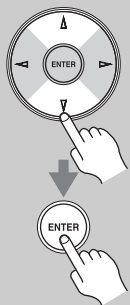
ご注意

- 自動スピーカー設定中はテレビ画面に表示されるメッセージなどは本機の表示部にも表示されます。

HDMI 入力端子の設定

HDMI IN 1 ～ 5 端子に、HDMI 出力端子のある DVD/BD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。
たとえば、DVD/BD プレーヤーを本機の HDMI IN 1 端子に接続したときは、DVD/BD に「HDMI1」を割り当ててください。

HDMI ケーブルで本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合、「- - - - -」に設定すると、ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号をアップコンバート（※）して HDMI OUT 端子から出力できます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「1. Input Assign」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1. Input Assign

1. HDMI Input
2. Component Video Input
3. Digital Audio Input

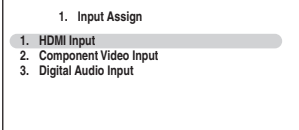
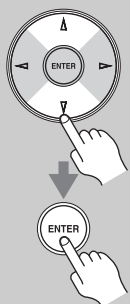
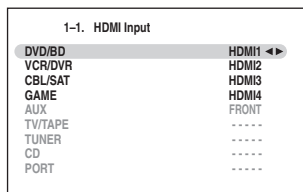
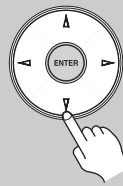
3

▲/▼ ボタンを押して「1. HDMI Input」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1–1. HDMI Input

DVD/BD	HDMI1 ◄►
VCR/DVR	HDMI2
CBL/SAT	HDMI3
GAME	HDMI4
AUX	FRONT
TV/TAPE	- - - - -
TUNER	- - - - -
CD	- - - - -
PORT	- - - - -

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

HDMI1：
映像機器を HDMI IN 1 端子に接続した場合に選びます。

HDMI2：
映像機器を HDMI IN 2 端子に接続した場合に選びます。

HDMI3：
映像機器を HDMI IN 3 端子に接続した場合に選びます。

HDMI4：
映像機器を HDMI IN 4 端子に接続した場合に選びます。

HDMI5：
映像機器を HDMI IN 5 端子に接続した場合に選びます。

- - - - -:
ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するときに選びます。また、ビデオ端子からの映像信号をアップコンバートする場合に、コンポーネントビデオ端子の設定も「- - - - -」にする必要があります。
入力に AUX を選んだときは、「FRONT」に固定となります。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

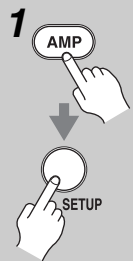
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- 「TV Control」の設定が「On」のときは、HDMI IN に接続された機器を TV/TAPE 入力に割り当てないでください。
  適切な CEC（Consumer Electronics Control）操作の保証ができなくなります。(➔79 ページ)
- HDMI IN 1 ～ IN 5 の各端子に割り当てできる入力は 1 つまでです。
- HDMI IN 1 ～ IN 5 を設定した入力には、自動的に同じ HDMI 1 ～ 5 のデジタル音声入力が割り当てられます。
- iPod をセットした UP-A1 シリーズの iPod ドックなどの入力機器を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO IN 端子または COMPONENT VIDEO IN 端子に DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力されます。
入力ごとに設定できます。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD/BD	IN 1
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	IN 2
GAME	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/TAPE	- - - - -
TUNER	- - - - -
CD	- - - - -
PORT	- - - - -

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「1. Input Assign」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1. Input Assign

1. HDMI Input
2. Component Video Input
3. Digital Audio Input

3

▲/▼ ボタンを押して「2. Component Video Input」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1–2. Component Video Input

DVD/BD	IN1 ◄►
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	IN2
GAME	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/TAPE	- - - - -
TUNER	- - - - -
CD	- - - - -
PORT	- - - - -

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器を D4 VIDEO IN 1 端子または COMPONENT VIDEO IN 1 端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器を D4 VIDEO IN 2 端子または COMPONENT VIDEO IN 2 端子に接続した場合に選びます。

- - - - -:
映像機器をビデオ端子に接続した場合に選びます。映像信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。

ご注意

- 「 IN 1」や「 IN 2」に設定されている入力では、ビデオ端子から映像信号が入力されていても HDMI OUT 端子から出力されません。
  ビデオ端子接続のみお使いの場合は、「- - - - -」に設定してください。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子は内部で並列になるように設計されています。1 つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO IN 1 端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO IN1 端子には何も接続しないでください。
- iPod をセットした UP-A1 シリーズの iPod ドックなどの入力機器を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。

デジタル音声入力端子の設定をする

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- HDMI 端子を割り当てた入力（➔37 ページ）には、本項目の設定も自動的に HDMI 端子が割り当てられますが、お好みで他のデジタル音声入力端子も割り当てることができます。
- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「- - - - -」にする必要があります。

入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD/BD	COAX1（同軸入力）
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	COAX2（同軸入力）
GAME	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/TAPE	OPT1（光入力）
TUNER	- - - - -
CD	OPT2（光入力）
PORT	- - - - -

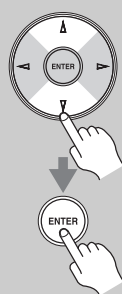
1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

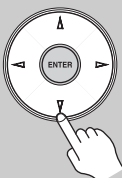
2

▲/▼ ボタンを押して「1. Input Assign」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「3. Digital Audio Input」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

例：本機後面のDIGITAL IN OPTICAL1 端子に DVD/BD レコーダーを接続した場合

DVD/BD のデジタル入力端子の初期設定は「COAX1」のため、「 OPT 1」に設定を変更します。

DVD プレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVD/BD のデジタル入力端子の初期設定は「COAX1」のため、「- - - - -」に設定を変更します。

DVD/BD 入力に HDMI 入力が割り当てられている場合は、HDMI 入力端子の設定を「- - - - -」に設定してください（➔37 ページ）。

以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

COAX1 ：(COAXIAL 1 端子)
COAX2 ：(COAXIAL 2 端子)
OPT1 ：(OPTICAL 1 端子)
OPT2 ：(OPTICAL 2 端子)
- - - - - ：(アナログ)

！ヒント

- HDMI 入力からの音声信号を使用しないときは、ENTER ボタンを押します。「COAX1*」のように「*」が表示されます。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- iPod をセットした UP-A1 シリーズの iPod ドックなどの入力機器を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。

スピーカーの設定をする

スピーカーインピーダンス設定は自動スピーカー設定（➔42 ページ）を行う前に設定してください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。
接続したスピーカーの中に1台でも4Ω 以上6Ω 未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

フロントスピーカーを FRONT SPEAKERS 端子と SURR BACK SPEAKERS 端子にバイアンプ接続している場合は、「Speaker Type」を「Bi-Amp」にしてください。

ご注意

- バイアンプ接続では最大 5.1 ch 再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

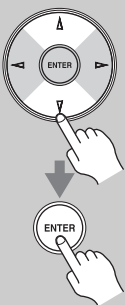
2

▲/▼ ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

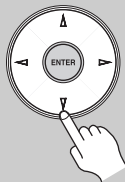
2. Speaker Setup

1. Speaker Settings
2. Speaker Configuration
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Equalizer Settings

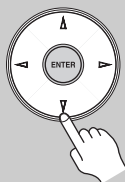
3

▲/▼ ボタンを押して「1. Speaker Settings」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「Speaker Impedance」を選び、◄/► ボタンを押して「4ohms」または「6ohms」を選ぶ

4ohms：接続したスピーカーの中に1台でも4Ω 以上6Ω 未満のスピーカーがある場合に選択します。
6ohms：接続したスピーカーがすべて6Ω 以上の場合に選択します。

5

▲/▼ ボタンを押して「Speaker Type」を選び、◄/► ボタンを押して「Normal」または「Bi-Amp」を選ぶ

Normal：フロントスピーカーを通常接続している場合に選択します。
Bi-Amp：フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合に選択します。

6

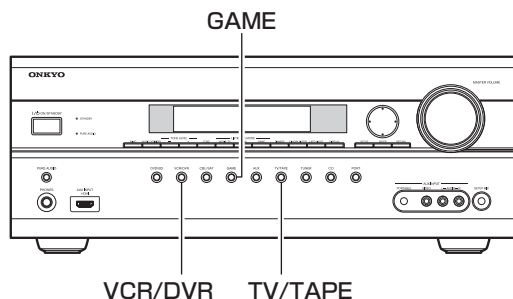
SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製の RI 端子付き RI ドックを本機の TV/TAPE IN 端子や GAME IN 端子または VCR/ DVR IN 端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1 INPUT SELECTOR ボタンの TV/TAPE、GAME、または VCR/DVR を押し、表示部に「TV/TAPE」、「GAME」または「VCR/DVR」を表示させる

2 TV/TAPE ボタン、GAME ボタンまたは VCR/DVR ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

TV/TAPE ボタン
「TV/TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TV/TAPE」

GAME ボタン
「GAME」→「DOCK」→「GAME」

VCR/DVR ボタン
「VCR/DVR」→「DOCK」→「VCR/DVR」

ご注意

- 「DOCK」は、TV/TAPE ボタン、GAME ボタン、VCR/DVR ボタンで切り換えることができますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まず RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔86 ページ）

自動スピーカー設定をする（Audyssey（オデッセイ） 2EQ（ツーイーキュー） ™ 機能）

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。
Audyssey 2EQ 機能を使用することで、Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー） ™ 機能を利用できるようになります。
Audyssey Dynamic EQ の働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます。
この機能を使用する前に、使用する全てのスピーカーを接続してください。
Audyssey Dynanic EQ 機能を有効にすると、Audyssey Dynamic Volume（ボリューム）™ 機能を利用できるようになります。

Audyssey Dynamic EQ について
Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQ は、Audyssey 2EQ 技術と連動することにより、すべての音量レベルに対して最適なバランスの音質を、すべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume について
Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ を取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の 3 箇所です。下図を参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。具体的な操作手順については、43、44 ページをご覧ください。

① 最初に測定する位置です。視聴エリアの中心、または 1 人で視聴するときに座る位置です。
② 2 番目に測定する位置です。視聴エリアの右側にあたる位置です。
③ 3 番目に測定する位置です。視聴エリアの左側にあたる位置です。
①と②、①と③の間は、1m 程度またはそれ以上あけるようにしてください。

□ 視聴位置
①②③ マイク測定位置
◌ 視聴エリア

ご注意
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

初期設定をする

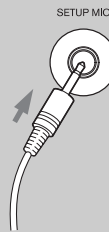
ご注意

- 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω のスピーカーがある場合、自動スピーカー設定を始める前に「スピーカーインピーダンス」を変更（➔40 ページ）してください。
- MUTING 機能が設定されていると、解除されます。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。
- 設定に必要な時間は 3 ケ所で約 15 分かかります。スピーカーの数によって時間は変わります。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中にスピーカー接続を外さないでください。
- 三脚台を使用して、視聴するときの耳に近い高さの位置に、マイクの先端が天井を向くように固定してください。
- テレビ画面に表示されるのは、本機と HDMI 接続しているテレビのみです。本機とテレビをコンポーネントビデオ／ D4 ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

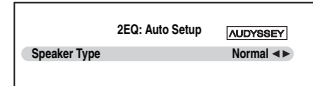
1

本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

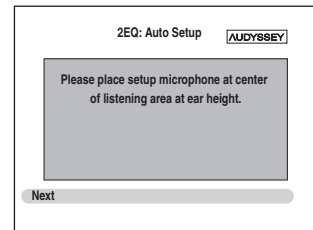
テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2

SETUP MIC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機の SETUP MIC 端子に接続する

42 ページの「測定のしかた」の図を参考に、①の位置にマイクを置いてください。
テレビに下記の画面が表示されます。

設定を変更する場合は、「スピーカーの設定をする」（➔40 ページ）の手順 ***5*** を参照してください。

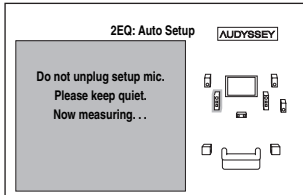
3

ENTER ボタンを押す

ご注意

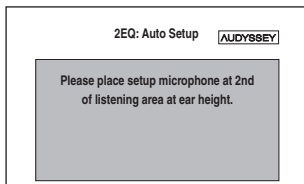
- 自動スピーカー設定（Audyssey 2EQ）を始める前に、14 ～ 16 ページを参考にスピーカーを本機に接続してください。自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合には部屋内の音域特性が変化しています。
自動スピーカー設定をやり直してください。
- 自動スピーカー設定中は、スピーカーとマイクの間に立ったり、物を置いたりしないでください。
スピーカーからマイクへの音響伝達経路が妨げられるため、正確に測定することができなくなります。
- 測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定することができなくなります。
- 部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音は、測定値の誤差を生むことになります。窓を閉めて、携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光ライト、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。
- 携帯電話は、使用中でなくても、RFI（無線周波妨害）のため測定の障害となることがあるので、測定中はすべてのオーディオ機器から遠ざけるか、または電源を切ってください。

➡ **手順 *4* に続く**

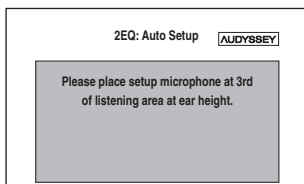
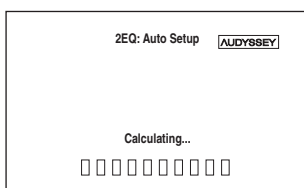
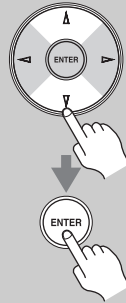
4 ENTER ボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。
完了するまで数分かかります。

- 測定中は部屋の中をできるだけ静かな状態にしてください。
  周囲に雑音があると正しく測定できないことがあります。屋外の音、室内の電気製品から出る音や人の話し声などが影響を与えることがあります。
- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

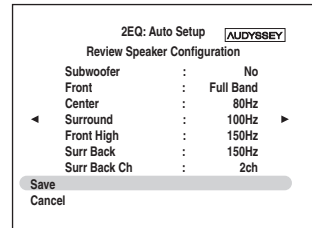
5 測定が終わると以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの右側に置き ENTER ボタンを押す

42 ページの「測定のしかた」の図を参考に、②の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

6 測定が終わると以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの左側に置き ENTER ボタンを押す

42 ページの「測定のしかた」の図を参考に、③の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

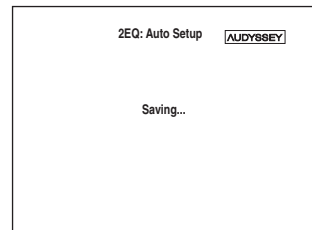
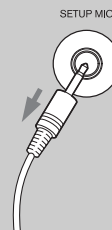
2EQ: Auto Setup　AUDYSSEY
Please place setup microphone at 3rd
of listening area at ear height.

7 測定が終わると以下の画面が表示され、自動的に測定結果を計算します

8 測定結果の計算が終わると以下の確認画面が表示されるので、▲/▼ ボタンで希望の項目を選び、ENTER ボタンを押す

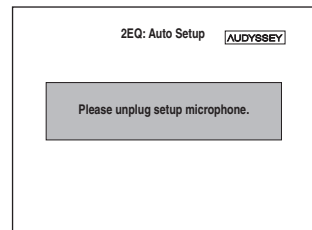
2EQ: Auto Setup　AUDYSSEY
Review Speaker Configuration

Subwoofer	:	No
Front	:	Full Band
Center	:	80Hz
Surround	:	100Hz
Front High	:	150Hz
Surr Back	:	150Hz
Surr Back Ch	:	2ch

Save
Cancel

Save：計算結果を保存して終了します。
Cancel：結果をキャンセルして終了します。

- スピーカーコンフィグレーション、スピーカーセッティング、スピーカーレベルなどの計算結果を確認するときは、◄/► ボタンを押してください。

9 「Save」を選ぶと保存開始の画面が表示されます。

ご注意
- **保存中は電源コードを抜いたり、電源を OFF したりしないでください。**

10 以下の表示が出たら、マイクのプラグを抜く

下記の画面が表示されます。

- 測定が完了すると「Equalizer Settings」は「Audyssey」に設定され、「Dynamic EQ」も「On」になります。
  (➔67、69、71 ページ)
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合には部屋内の音域特性が変化しています。
  自動スピーカー設定をやり直してください。

■ 測定途中に表示されるエラーメッセージについて

Speaker Detect Error

- フロントスピーカーが１つしか検出できません。

2EQ: Auto Setup AUDYSSEY
Speaker Detect Error
FL : Yes FR : Yes
SL : --- SR : No
FHL : --- FHR : ---
SBL : --- SBR : ---
C : Yes SW : ---

- サラウンドスピーカーが１つしか検出できません。

2EQ: Auto Setup AUDYSSEY
Speaker Detect Error
FL : Yes FR : Yes
SL : --- SR : No
FHL : --- FHR : ---
SBL : --- SBR : Yes
C : Yes SW : ---

- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

2EQ: Auto Setup AUDYSSEY
Speaker Detect Error
FL : Yes FR : Yes
SL : --- SR : Yes
FHL : --- FHR : ---
SBL : No SBR : Yes
C : Yes SW : ---

- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。

- スピーカーに異常があります。スピーカーが壊れているか、サブウーファーの音量が高域を出しすぎているかもしれません。

Ambient noise is too high.

測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。雑音の原因を取り除いてください。

Retry： 再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）
Cancel： 結果をキャンセルして終了します。

Speaker matching error!

１回目の測定でのスピーカー数と、2、3 回目の測定でのスピーカー数が違います。
検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
Retry： エラーが出たところから測定し直します。
Cancel： 結果をキャンセルして終了します。

Writing Error!

測定結果の保存に失敗しました。
2、3 度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。
Retry： 再度保存し直します。
Cancel： 結果をキャンセルして終了します。

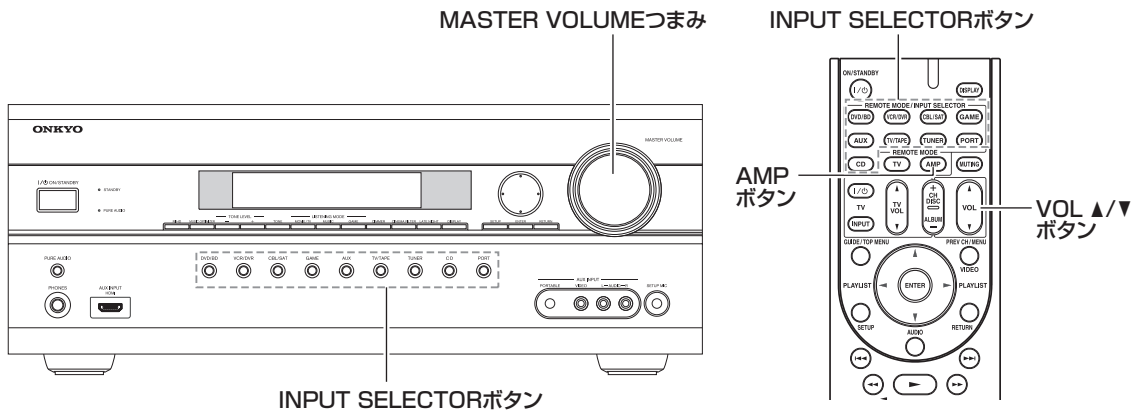
スピーカー設定をマニュアルで変更する

ごくまれに、自動スピーカー設定で適切な測定ができないことがあります。（例：室内のノイズが大きすぎる場合など）2 度目のスピーカー設定でもうまくいかなければ、手動で設定する必要があります。（➔62 〜 67 ページ）

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（Subwoofer）が「No」と表示されるときは、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。
また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off」あるいは「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

本体の INPUT SELECTOR ボタンを押します。または、リモコンの AMP ボタンを押してから INPUT SELECTOR ボタンを押します。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD/BD 対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

MASTER VOLUME
または
VOL
本体
リモコン

本体の MASTER VOLUME つまみ、またはリモコンの VOL ▲/▼ ボタンで音量を調整する

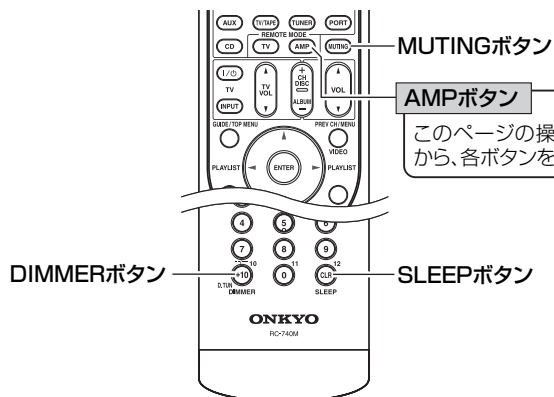
音量は基本的に MIN・1・2・・・・・78・79・MAX までの範囲で調整できます。

！ヒント

- 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは 54 ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンの MUTING ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■ 解除するには

もう一度 MUTING ボタンを押してください。

（音量を変えたり、ON/STANDBY ボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

リモコンの SLEEP ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中は SLEEP インジケーターが点灯します。

■ 残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときに SLEEP ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が 10 分以下のときに再び SLEEP ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■ スリープタイマーを解除するには

SLEEP インジケーターが消えるまで、くり返し SLEEP ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

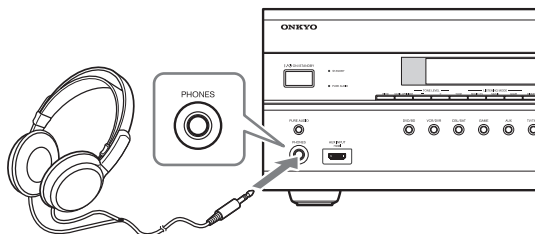
表示部の明るさを変えることができます。本体の DIMMER ボタンでも操作できます。

リモコンの DIMMER ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう →

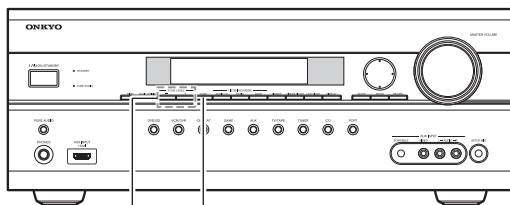
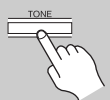
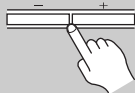
ヘッドホンで聞く

PHONES 端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio」、「Mono」または「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

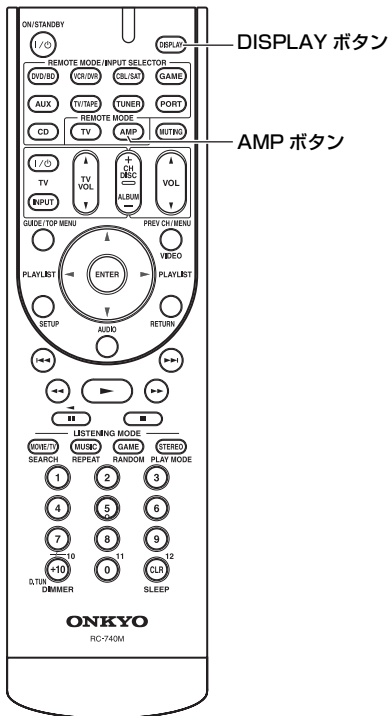
低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

- リモコンの Audio ボタンでも操作することができます。（➔70 ページ）

1 TONE ボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2 ＋ / −ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、
− 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

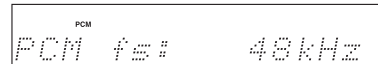
表示を確認する

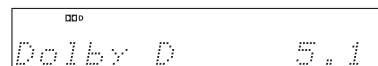
入力信号の様々な情報を表示することができます。

1

AMP ボタンを押してから DISPLAY ボタンを押す

本体の DISPLAY ボタンでも操作できます。

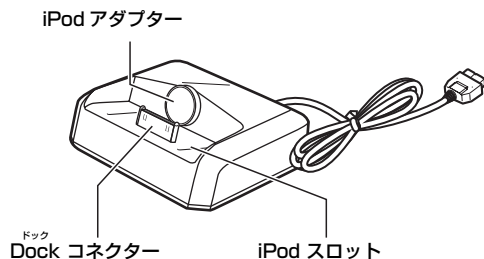
- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAY ボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

●入力信号がアナログのとき

●入力信号が PCM のとき

●入力信号が PCM 以外のデジタル信号のとき

* 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約 3 秒経過すると、元の表示に戻ります。

●入力信号が AAC の音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

UP-A1 シリーズの iPod ドックについて

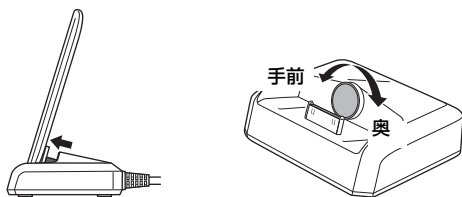
別売の UP-A1 シリーズの iPod ドックは、本機を経由して iPod に保存された音楽や写真、映画などを楽しむことができます。

ご注意

- iPod ドックの最新情報は、弊社ホームページをご覧ください。http://www.jp.onkyo.com
- iPod ドックがサポートする iPod の情報については、iPod ドック取扱説明書をご覧ください。
- ご使用になる前に、必ずご使用の iPod を最新のバージョンにアップデートしてください。最新バージョンにするためのソフトウェアアップデーターは、Apple 社のホームページにて入手してください。

iPod を UP-A1 シリーズの iPod ドックにセットする

1 **AMP ボタンを押してから、INPUT SELECTOR ボタンで PORT を選びます。**
2 **iPod を iPod スロットに慎重に差し込んでください。**

■ iPod アダプターの調整

iPod を iPod スロットにしっかり差し込みます。iPod によっては、iPod 背面とドックとの間にすき間ができますので、iPod アダプターを回して調節し、すき間をなくしてください。左に回すと iPod アダプターを手前に、右に回すと奥に調節することができます。

ご注意

- 本機の音量を下げてください。
- iPod を抜き差しするときは、ねじったりしてコネクタ部を傷つけないようにしてください。また、使用中に iPod を前に倒したりすると、端子部分を破損する原因となりますので、ご注意ください。
- iPod ドックの使用中は、iPod をドックから抜かないでください。
- FM トランスミッターやマイクロフォンなど他のアクセサリーとは併用しないでください。
  動作不良などの原因となる場合があります。
- ドックを使用する前に iPod ソフトウェアをアップデートすることをお勧めします。iPod のソフトウェアアップデーターは Apple 社のホームページで利用することができます。

UP-A1 シリーズの iPod ドックの機能概要

■ 基本動作

ご注意

- 本機が始動するのに数秒かかります。最初の音楽の頭出し数秒が聞こえないかもしれません。

- **オートパワーオン機能**
  本機がスタンバイ状態のときに iPod を再生すると、本機は iPod を接続した入力に切り換わり、iPod の再生が始まります。
- **ダイレクトチェンジ動作**
  本機が他の入力のときリモコンで iPod を再生すると、iPod を接続した入力に自動的に切り換わり、iPod の再生をします。
- **本機リモコン操作**
  本機のリモコンで、iPod の基本的な操作を行うことができます。

ご注意

- 他の入力を選択する前には、iPod の再生を停止してください。
- iPod に他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選ぶことができないかもしれません。
- iPod がドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。もし、ドックにセットされた iPod の音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

■ iPod アラーム機能の使い方

iPod のアラーム機能で、iPod と本機を設定した時間に自動的に立ち上げることができます。本機の入力は、自動的に PORT に設定されます。

ご注意

- この機能を使用するには、iPod ドックに対応した iPod で、iPod ドックは本機に接続されていなければなりません。
- この機能を使用するときは、必ず本機のボリュームを適当な音量に設定してください。
- 本機が始動するのに数秒かかります。最初の音楽の頭出し数秒が聞こえないかもしれません。

■ iPod を充電するには

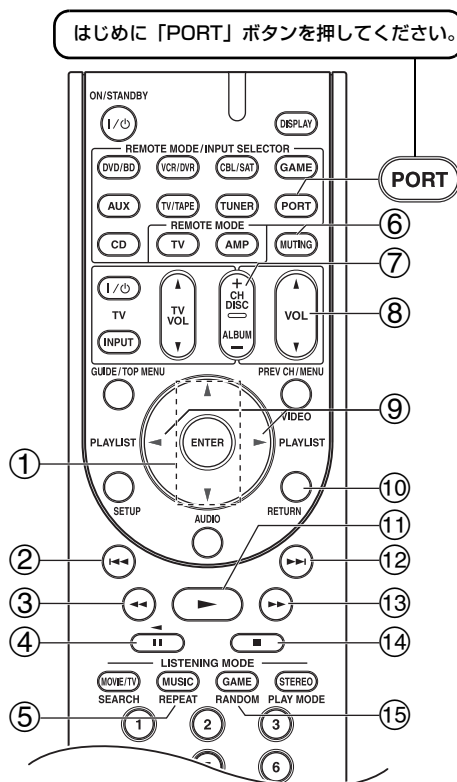
本機の UNIVERSAL PORT 端子に iPod ドックを接続し、本機がオンまたはスタンバイ状態で、iPod ドックに iPod をセットすると、iPod のバッテリーを充電します。

ご注意
- iPod の充電機能を使用すると、スタンバイ状態での消費電力が少し増加します。

iPod を操作する

iPod ドックのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押すことで、以下のボタンで iPod ドックにセットされた iPod を操作することができます。
PORT ボタンは、UNIVERSAL PORT 端子に接続された iPod ドックを操作するため、あらかじめリモコンコードが登録されています。

UNIVERSAL PORT 端子に接続したときの iPod ドックの使い方
- UNIVERSAL PORT 端子に iPod ドックを接続してください。
- より詳しい情報は、iPod ドックの取扱説明書をご覧ください。

入力で PORT を選択したときに、iPod を操作することができます。

ご注意
- iPod の詳しい操作方法については、iPod の取扱説明書をご覧ください。

① **▲/▼/ENTER ボタン**
メニューを操作します。中央の ENTER ボタンを押すと、選んだメニューを確定します。

② **⏮ ボタン**
再生中の曲を頭から再生します。2 回押すと前の曲に戻ります。

③ **◀◀ ボタン**
曲を早戻します。

④ **❚❚ ボタン**
再生を一時停止します。

⑤ **REPEAT ボタン**
リピートモードを切り換えます。

⑥ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑦ **ALBUM + / −ボタン**
アルバムを選択します。

⑧ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑨ **PLAYLIST◀/▶ ボタン**
iPod のプレイリストを選択します。

⑩ **RETURN ボタン**
メニューを出るか前のメニューに戻ります。

⑪ **▶ ボタン**
再生を始めます。
本機がオフのときは、自動的に立ち上がります。

⑫ **⏭ ボタン**
次の曲を選びます。

⑬ **▶▶ ボタン**
曲を早送りします。

⑭ **■ ボタン**
再生を停止してメニュー画面を表示します。

⑮ **RANDOM ボタン**
ランダム再生をします。

本機に表示されるメッセージについて

❑ **ドックとの接続をチェック中です。**

PORT Reading

❑ **接続されたドックはサポートされていません。**

PORT NotSupport

接続されたドックは、本機ではサポートされていません。

❑ **UP-A1シリーズのiPodドックにiPodがセットされました。**

PORT UP-A1

お使いの iPod は、UNIVERSAL（ユニバーサル） PORT（ポート） 端子に接続された UP-A1 シリーズの iPod ドックに正しくセットされました。
接続を確認したときは、本機表示部に約 8 秒間「UP-A1」と表示されます。

❑ **ドックから iPod が取り外されました。**

PORT

お使いの iPod は、UNIVERSAL PORT 端子に接続された UP-A1 シリーズの iPod ドックから取り外されました。

ご注意
- 本機の表示部に何も表示されない場合は、iPod の接続を調べてください。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護された DVD などはデジタル録音・録画できません。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- 録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されますのでご注意ください。
- VCR/DVR IN 端子に入力された映像や音声は、VCR/DVR OUT 端子に出力されません。
  また、TV/TAPE IN 端子に入力された音声は、TV/TAPE OUT 端子に出力されません。
  これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。
  録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1

INPUT SELECTOR ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

録音・録画中にソースを見ることができます。また、録音・録画中は、MASTER VOLUME つまみの操作を行っても録音・録画機器への出力には影響はありません。

！ヒント

本機に付属のリモコンでも操作を行うことができます。

2

録音・録画する機器（録画側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音・録画機器で行ってください。
- 録音・録画のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3

録音・録画を始める

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX INPUT 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1

録音する機器（再生側）の準備をする

例：AUX INPUT 端子に接続したビデオカメラにテープをセットする。

2

VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3

AUX

INPUT SELECTOR ボタンの AUX を押す

4

CD

INPUT SELECTOR ボタンの CD を押す

音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 ***3*** で選んだ AUX のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、AUX INPUT 端子に接続したビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

ご注意

- この方式で録音できるのは TUNER、TV/TAPE、CD 端子に接続した機器の音声のみです。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

INPUT SELECTOR ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

MOVIE/TV ボタン、MUSIC ボタン、GAME ボタンまたは PURE AUDIO ボタンでリスニングモードを選ぶ

MOVIE/TV：
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC：
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME：
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、HDMI 入力された映像以外は出なくなります。PURE AUDIO ボタンをもう一度押すと、「Pure Audio」は取り消され、もとのリスニングモードに戻ります。

リモコンで選ぶ

1

AMP ボタンを押してから INPUT SELECTOR ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

AMP ボタンを押してから MOVIE/TV ボタン、MUSIC ボタン、GAME ボタンまたは STEREO ボタンでリスニングモードを選ぶ

MOVIE/TV：
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC：
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME：
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

STEREO：
リスニングモードを「All Ch Stereo」または「Stereo」に切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

スピーカーレイアウトのイラストは、「スピーカーの設定をする」（➔40 ページ）や「スピーカー構成の設定」（➔62 ページ）で、有効または無効に設定されたスピーカーを示しています。

操作ボタンのイラストは、リスニングモードを選択するボタンを示しています。

MOVIE/TV　MUSIC　GAME　STEREO

左フロントハイ スピーカー　FHL
右フロントハイ スピーカー　FHR
左フロント スピーカー　FL
センター スピーカー　C
右フロント スピーカー　FR
サブ ウーファー　SW
左サラウンド スピーカー　SL
右サラウンド スピーカー　SR
左サラウンド バックスピーカー　SBL
右サラウンド バックスピーカー　SBR

C : スピーカーの設定が有効
C : スピーカーの設定が無効

Mono（モノ）/Multiplex（マルチプレックス）*2 音声入力

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
		FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR	FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR	FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR	FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR
Pure Audio	PURE AUDIO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	STEREO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1
Game-RPG	GAME			✔	✔*1
Game-Action	GAME			✔	✔*1
Game-Rock	GAME			✔	✔*1
Game-Sports	GAME			✔	✔*1
AllChStereo	MOVIE/TV MUSIC GAME STEREO		✔	✔	✔*1
FullMono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1
T-D (Theater-dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔

*1 リモコンの AUDIO（オーディオ） ボタンを使って、フロントハイスピーカーかサラウンドバックスピーカーが選べます（Speaker（スピーカー） Layout（レイアウト） 機能 ➔71 ページ）。
*2 Multiplex は、AAC フォーマットの 2ヶ国語放送の意味です。

ご注意
- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

Stereo 音声入力

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
		FL C FR SW	FL C FR SW	FL C FR SW SL SR	FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR
Pure Audio	PURE AUDIO, MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV, MUSIC, GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	STEREO, MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
PLII/PLIIx Movie*2	MOVIE/TV		✔	✔	✔（サラウンドバック）
PLII/PLIIx Music*2	MUSIC		✔	✔	✔（サラウンドバック）
PLII/PLIIx Game*2	GAME		✔	✔	✔（サラウンドバック）
PLIIz Height	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔（フロントハイ）
Neo:6 Cinema	MOVIE/TV		✔	✔	✔（サラウンドバック）
Neo:6 Music	MUSIC		✔	✔	✔（サラウンドバック）
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1
Game-RPG	GAME			✔	✔*1
Game-Action	GAME			✔	✔*1
Game-Rock	GAME			✔	✔*1
Game-Sports	GAME			✔	✔*1
AllChStereo	MOVIE/TV, MUSIC, GAME, STEREO		✔	✔	✔*1
FullMono	MOVIE/TV, MUSIC, GAME		✔	✔	✔*1
T-D (Theater-dimensional)	MOVIE/TV, GAME	✔	✔	✔	✔
Neo:6 Cinema DTS Surround Sensation	MOVIE/TV, GAME	✔	✔	✔	✔
Neo:6 Music DTS Surround Sensation	MUSIC	✔	✔	✔	✔

*1 リモコンの AUDIO ボタンを使って、フロントハイスピーカーかサラウンドバックスピーカーが選べます（Speaker Layout 機能 ➔71 ページ）。

*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。

ご注意

- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

5.1 channel（チャンネル）音声入力

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
		FL FR SW	FL C FR SW	FL C FR SW SL SR	FHL FHR FL C FR SW SL SR SBL SBR
Pure Audio	PURE AUDIO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	STEREO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
DolbyDigital/ DolbyDigital Plus/TrueHD/ Multichannel/ DTS/DTS-HD High Resolution Audio/DTS-HD Master Audio/ DTS Express/ AAC/DSD*2	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔
Neo:6	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔（サラウンドバック）
PLIIx Movie	MOVIE/TV				✔（サラウンドバック）
PLIIx Music	MUSIC				✔（サラウンドバック）
PLIIz Height	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔（フロントハイ）
DolbyEX	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔（サラウンドバック）
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1
Game-RPG	GAME			✔	✔*1
Game-Action	GAME			✔	✔*1
Game-Rock	GAME			✔	✔*1
Game-Sports	GAME			✔	✔*1
AllChStereo	MOVIE/TV MUSIC GAME STEREO		✔	✔	✔*1
FullMono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1
T-D (Theater-dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔

*1 リモコンの AUDIO（オーディオ） ボタンを使って、フロントハイスピーカーかサラウンドバックスピーカーが選べます（Speaker（スピーカー） Layout（レイアウト） 機能 ➔71 ページ）。
*2 本機は HDMI からの DSD 信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定を PCM に設定したほうがよい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定を PCM 出力にしてください。

ご注意
- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

7.1 channel 音声入力

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
Pure Audio	PURE AUDIO, MUSIC	✔	✔	✔	✔*2 (サラウンドバック)
Direct	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔*2 (サラウンドバック)
Stereo	MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV, MUSIC, GAME	✔	✔	✔	✔
Multichannel/ DolbyDigital Plus/TrueHD/ DTS-HD High Resolution Audio/DTS-HD Master Audio	MOVIE/TV, MUSIC, GAME		✔	✔	✔*2 (サラウンドバック)
PLIIz Height	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔ (フロントハイ)
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1
Game-RPG	GAME			✔	✔*1
Game-Action	GAME			✔	✔*1
Game-Rock	GAME			✔	✔*1
Game-Sports	GAME			✔	✔*1
AllChStereo	MOVIE/TV, MUSIC, GAME		✔	✔	✔*1
FullMono	MOVIE/TV, MUSIC, GAME		✔	✔	✔*1
T-D (Theater-dimensional)	MOVIE/TV, GAME	✔	✔	✔	✔
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV, GAME	✔	✔	✔	✔

DTS-ES Discrete/Matrix ソース

DTS-ES Discrete	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔ (サラウンドバック)
DTS-ES Matrix	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔ (サラウンドバック)

*1 リモコンの AUDIO ボタンを使って、フロントハイスピーカーかサラウンドバックスピーカーが選べます（Speaker Layout 機能 ➔71 ページ）。
*2 入力信号にフロントハイチャンネルがエンコードされているとき、フロントハイスピーカーから音声がでます。

ご注意

- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

Direct
もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。

Pure Audio
Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、HDMI 入力以外の映像が出なくなります。）

Stereo
左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono
モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx
2 チャンネルソースや 5.1 ch ソースでサラウンド再生を楽しむことができます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。

- **Dolby PL IIx Movie**
  VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- **Dolby PL IIx Music**
  CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。
- **Dolby PL IIx Game**
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIx の代わりに、このリスニングモードになります。
2 チャンネルで収録された音楽や映画をサラウンド再生で楽しむことができます。

Dolby Pro Logic IIz Height
ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Height は、映画，音楽，ゲームなどすべての入力音源に適したモードです。

Dolby Digital
劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digital ロゴのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画をサラウンドバックチャンネルも利用して再生できます。
5.1 チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで，より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の 5.1 チャンネル環境で再生することも可能です。5.1 チャンネルで記録された DolbyDigital ロゴのついた DVD、LD の再生時は DolbyDigital EX となり、その他のソースでは Dolby EX となります。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS
独立した 5.1 チャンネル音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。DTS ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24
DTS 96/24 ロゴのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete
DTS-ES Discrete 信号をサラウンドバックを利用して最適に再生できるモードです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix
DTS-ES Matrix 収録ソフトで利用するモードです。
DTS-ES Matrix 収録ソフトにエンコードされているサラウンドバックチャンネル情報をサラウンドバックチャンネルから再生します。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo：6
2 チャンネルで収録されたソースをマルチチャンネルサラウンド再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適な Cinema モードと音楽再生に最適な Music モードが選択できます。

- Neo：6 Cinema
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現されます。2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画には Neo：6 となり、サラウンドバックチャンネルを利用して再生できます。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS Express
最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

AAC
MPEG-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

Multich
Multich PCM ソース再生時に使用できるモードです。

DSD
DSD(Direct Stream Digital) は、スーパーオーディオ CD に採用されているフォーマットです。このモードは、DSD フォーマットの SACD 再生時に選べます。

DTS Surround Sensation
2 つのスピーカーだけでマルチチャンネルサラウンドを楽しむことが出来るモードです。

- Neo:6 Cinema + DTS Surround Sensation
- Neo:6 Music + DTS Surround Sensation
  これらのモードは、バーチャル再生でのサラウンド感を得るためにステレオソースに対して Neo:6 を使用します。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Orchestra
クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。

Studio-Mix
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

Game- RPG
RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Action
アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Rock
ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Sports
スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

All Ch Stereo
BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono
すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

T-D (Theater-Dimensional)
2 つまたは 3 つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

聴きたいリスニングモードが選べない

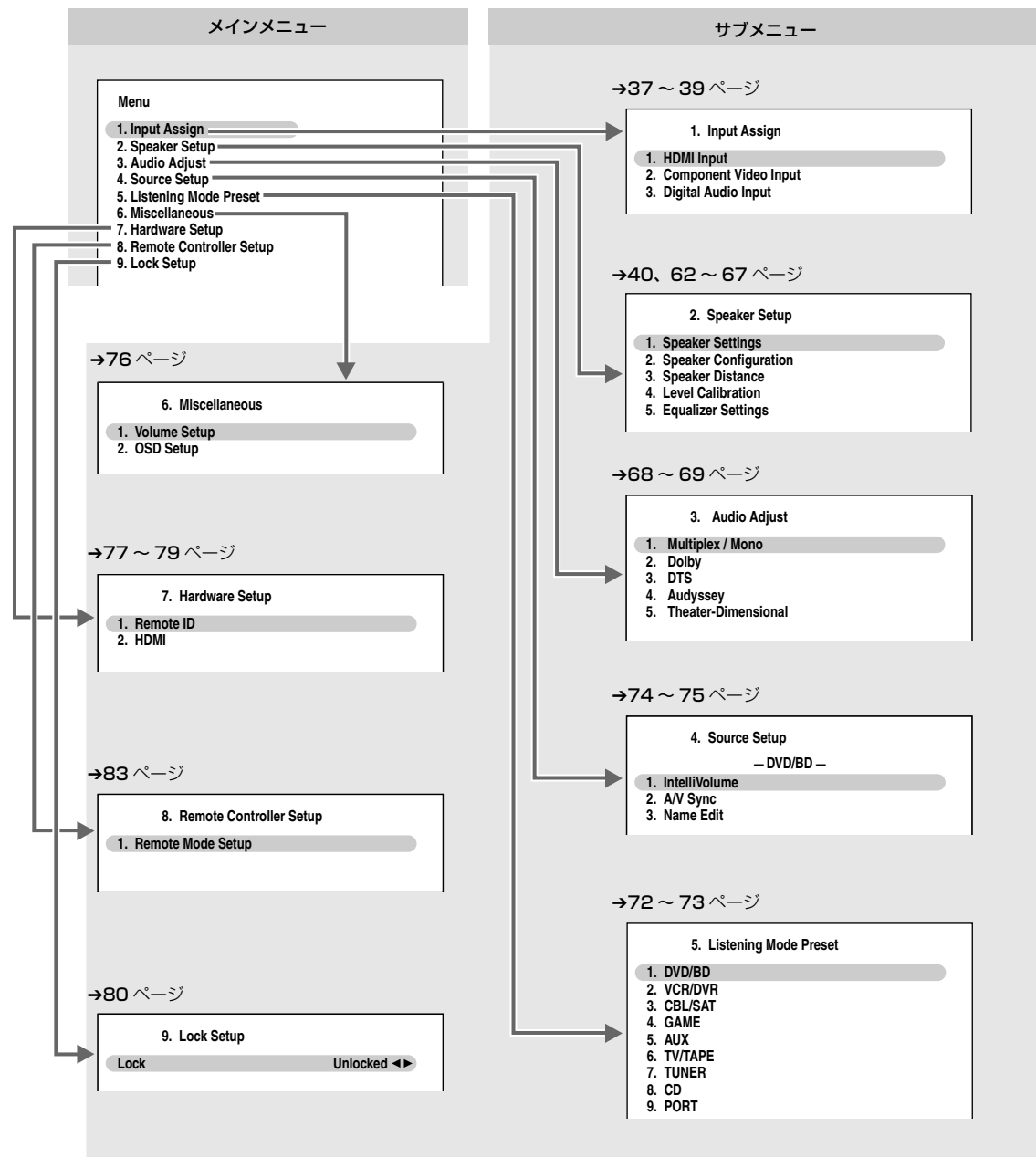
- デジタル接続はしましたか？または、HDMI 接続はしましたか？（➔23 ～ 31 ページ）
  ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルや DTS ロゴのついた DVD の本編を再生中に、本機の PCM 表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定が PCM になっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

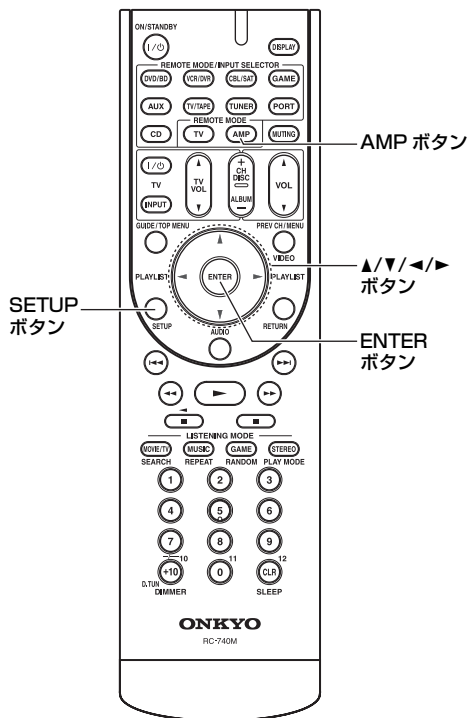
設定をする（応用編）

各種設定について

スピーカー、音声、映像などに関する各種設定を行うことができます。設定内容は、本体表示部および接続しているテレビ画面に表示されます。自動スピーカー設定が終了したら、必要に応じて各設定を行ってください。

ご注意

- テレビ画面へ表示されるのは、本機と HDMI 接続しているテレビのみです。本機とテレビをコンポーネントビデオ /D4 ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

スピーカーセットアップ

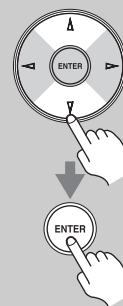
この中の多くのメニューは自動スピーカー設定（➔42 ページ）で自動設定されています。自動スピーカー設定のあとに使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカーの設定

40 ページの「スピーカーの設定をする」をご覧ください。

スピーカー構成の設定（スピーカーコンフィグ）

> 自動スピーカー設定（➔42 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーの「有 / 無」と「クロスオーバー周波数」を設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何 Hz からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「Full Band」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
それぞれのスピーカーのクロスオーバー周波数は、Full Band、40Hz、50Hz、60Hz、70Hz、80Hz、90Hz、100Hz、120Hz、150Hz、200Hz から選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

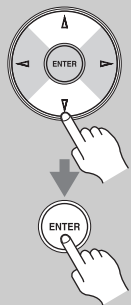
▲/▼ ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

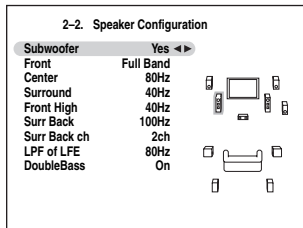
2. Speaker Setup

1. Speaker Settings
2. Speaker Configuration
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Equalizer Settings

➡ 手順 *3* に続く

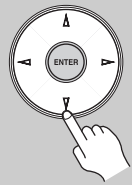
3

▲/▼ ボタンを押して「2. Speaker Configuration（スピーカー構成）」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「Subwoofer」を選び、◄/► ボタンでサブウーファーを使用する / 使用しないを選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合

No：サブウーファーを接続していない場合

5

▲/▼ ボタンを押して設定するスピーカーを選び、◄/► ボタンでスピーカーの有無とクロスオーバー周波数を選ぶ

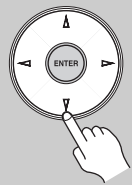
「Front」「Center」「Surround」「Front High」「Surr Back」についてそれぞれ設定します。
接続されていないスピーカーは「None」を選んでください。
接続されているスピーカーはクロスオーバー周波数を選んでください。

！ヒント

- クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何 Hz からサブウーファーで出力するかの設定で、**Full Band、40、50、60、70、80、90、100、120、150、200Hz** から選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

ご注意

- フロントは「None」に設定できません。
- サラウンドを「None」にするとサラウンドバックとフロントハイも自動的に「None」になります。
- 手順 ***4*** でサブウーファーを「No」にした場合、フロントは「Full Band」に固定されます。他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
- フロントを「Full Band」以外に設定した場合、他のスピーカーで「Full Band」を選べなくなります。
- 「Speaker Type」で「Bi-amp」を設定した場合（➔40 ページ）、サラウンドバックとフロントハイは選べなくなります。
- サラウンドを「Full Band」以外に設定したとき、サラウンドバックで「Full Band」を選べなくなります。

6

▲/▼ ボタンを押して「Surr Back ch」を選び、◄/► ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合（SURR BACK SPEAKERS L 端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが 2 つの場合

ご注意

- 手順 ***5*** でサラウンドバックを「None」にした場合は、この項目は設定できません。

➡ **手順 *7* に続く**

LFE のローパスフィルター設定

この項目は自動スピーカー設定（➔42 ページ）では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定します。ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。
80Hz、90Hz、100Hz、120Hz から選択できます。

7

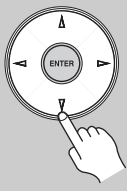
▲/▼ ボタンを押して「LPF of LFE」を選び、◄/► ボタンで設定する

➡ 手順 *8* に続く

ダブルバスの設定

この項目は自動スピーカー設定（➔42 ページ）では自動で設定されていません。

サブウーファーを「Yes（あり）」にしていて、フロントスピーカーを「Full Band」に設定している場合に設定できます。
フロントとセンターのチャンネルの低音域をサブウーファーへも出力することで、サブウーファーをさらに強調させることができます。

8

▲/▼ ボタンを押して「Double Bass」を選び、◄/► ボタンで設定する

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

9

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURN ボタンを押してください。

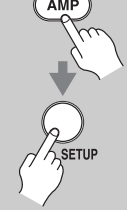
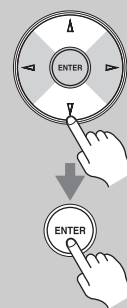
！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

自動スピーカー設定（➔42 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

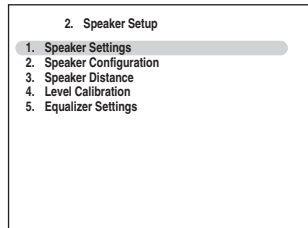
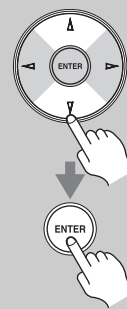
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

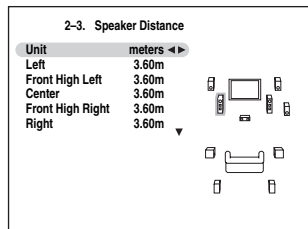
2

▲/▼ ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

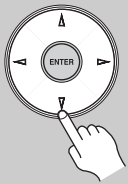
設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「3. Speaker Distance」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

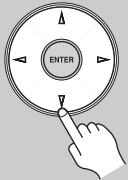
ご注意

- 「2. Speaker Configuration（スピーカー構成）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

➡ 手順 *4* に続く

4

▲/▼ ボタンを押して「Unit（単位）」を選び、◄/► ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.3m 単位で 0.3m から 9m の範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。1ft 単位で 1ft から 30ft の範囲で設定できます。

5

▲/▼ ボタンを押してスピーカーを選び、◄/► ボタンで距離を設定する

接続されているすべてのスピーカーについて、スピーカーから視聴位置までの距離を実際に近い数値に設定します。

！ヒント

- センタースピーカー、サブウーファー、フロントハイスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の± 1.5m の範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを 6m に設定した場合、4.5m から 7.5m の範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の－ 4.5m から＋ 1.5m の範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを 6m に設定した場合、1.5m から 7.5m の範囲で調整できます。

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN ボタンを押してください。

！ヒント

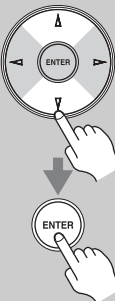
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

自動スピーカー設定（➔42 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

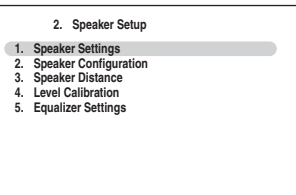
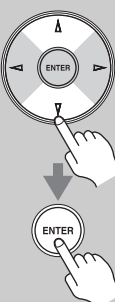
1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

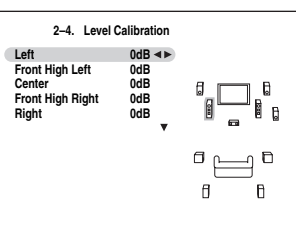
2

▲/▼ ボタンを押して

「2. Speaker Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

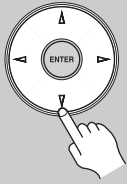
設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「4. Level Calibration」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

ご注意

- 「2. Speaker Configuration（スピーカー構成）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

➡ 手順 *4* に続く

4

▲/▼ ボタンでスピーカーを切り換え、◄/► ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- − 12 dB（デシベル） 〜 +12 d B の範囲で調整できます。
- サブウーファーは− 15dB 〜 +12 d B の範囲内で調整できます。

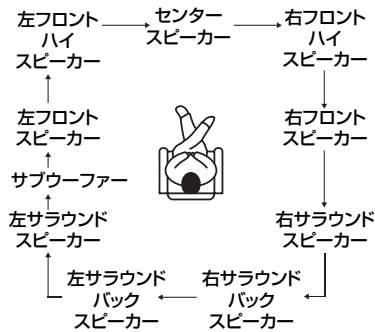
5

手順 4 をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

イコライザー設定

自動スピーカー設定（➔42 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 65 ページの方法でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

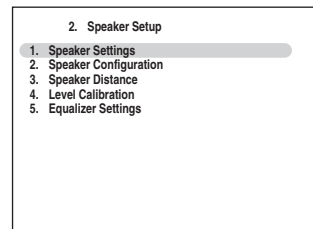
▲/▼ ボタンを押して「2. Speaker Setup（スピーカー セットアップ）」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

設定画面が表示されます。

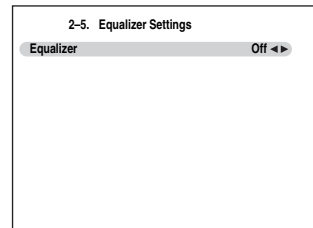
2. Speaker Setup

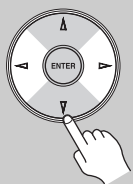
1. Speaker Settings
2. Speaker Configuration
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Equalizer Settings

3

▲/▼ ボタンを押して「5. Equalizer Settings（イコライザー セッティング）」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2–5. Equalizer Settings

Equalizer Off ◄►

➡ 手順 *4* に続く

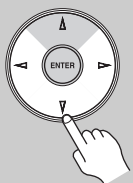
4

◄/► ボタンを押して「設定」を選ぶ

Off: すべての音域で同じ音場設定になります。

Audyssey: 自動スピーカー設定で設定された音場設定になります。自動スピーカー設定を行ってから選択してください。

Manual: お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順 ***5*** に進みます。「Off」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順 ***7*** に進みます。

5

▼ ボタンを押して「Channel」を選び、◄/► ボタンを押してスピーカーを選ぶ

設定画面が表示されます。

2–5. Equalizer Settings

Equalizer	Manual ◄►
Channel	Front
63Hz	0dB
250Hz	0dB
1000Hz	0dB
4000Hz	0dB
16000Hz	0dB

6

▲/▼ ボタンで調整したい音域（周波数）を選び、◄/► ボタンで調整する

以下の音域を選択できます。

63Hz、250Hz、1000Hz、4000Hz、または 16000Hz

またサブウーファーの音域は以下より選択できます。

25Hz、40Hz、63Hz、100Hz または 160Hz

− 6 dB 〜＋ 6dB の範囲で調整できます。

！ヒント

- 63Hz など、低い周波数は低音域、16000Hz などの高い周波数は高音域を表します。

この手順を繰り返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN ボタンを押してください。

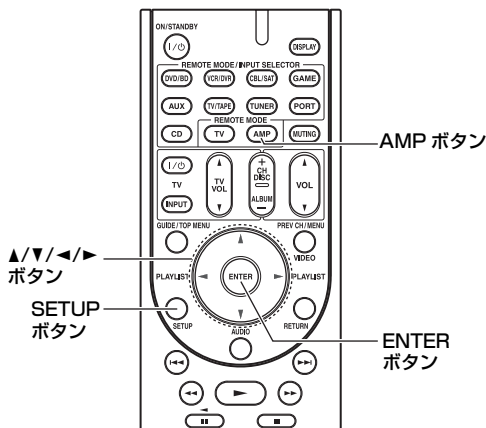
！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- Direct と Pure Audio のリスニングモードのときは、効果がありません。

音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

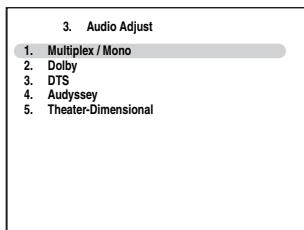
2

▲/▼ ボタンを押して「3. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3. Audio Adjust

1. Multiplex / Mono
2. Dolby
3. DTS
4. Audyssey
5. Theater-Dimensional

3

▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は、本ページおよび次ページをご覧ください。

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで調整する

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

Multiplex/Mono Settings（マルチプレックス／モノ セッティング）

■ 主音声と副音声を切り換える

Multiplex Input Channel（インプット チャンネル）

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して、表示部に音声の数が「1 + 1」と表示されたら音声多重放送です。

Main（メイン）： 主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）

Sub（サブ）： 副音声を出力します。

Main/Sub： 主音声と副音声の両方を出力します。

■ Mono 時の設定をする

Mono Input Channel

2 チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

Left+Right（レフト ライト）： 左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）

Left： 左チャンネルの信号を再生します。

Right： 右チャンネルの信号を再生します。

Dolby Settings（ドルビー）

■ Dolby Pro Logic II Music（プロ ロジック ミュージック）/Dolby Pro Logic IIx Music 時の音質を調整する

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

On： パノラマ効果をオンにします。

Off： パノラマ効果をオフにします。（お買い上げ時の設定）

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
お買い上げ時は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、「－ 1」、「－ 2」、「－ 3」にすると前方へ、「＋ 1」、「＋ 2」、「＋ 3」にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0 ～ 7 の範囲で選択できます。

■ Dolby EX 信号の再生方法を設定する

Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD にのみ効果があります。

Auto： Dolby EX 識別信号があるときは、リスニングモードが Dolby EX に切り換わります。

Manual： 選択可能なすべてのリスニングモードを選ぶことができます。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- サラウンドバックが「None」に設定されている場合は、この設定は選べません。フロントハイが「None」以外に設定されている場合は、「Manual」に固定となります。

DTS Setting

■ Neo:6 Music 時の音質を調整する

Center Image

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。「0」に設定すると，フロント音場が中央寄りになり，「5」に設定するとフロント音場が左右に広がります。
お買い上げ時の設定は「2」ですが、0 ～ 5 の範囲で選択できます

Audyssey Settings

■ Audyssey の設定をする

自動スピーカー設定 (➔42 ページ) が完了すると、イコライザー設定（Equalizer Settings）は「Audyssey」に設定され（➔66、67 ページ)、Dynamic EQ も「On」に設定されます。

Dynamic EQ

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら周波数特性の補正を行います。

Off： Dynamic EQ 機能をオフにします。

On： Dynamic EQ 機能をオンにします。

Dynamic Volume

Off： Audyssey Dynamic Volume™ 機能をオフにします。

Light： 低圧縮モードが適用されます。

Medium： 標準圧縮モードが適用されます。

Heavy： 高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与え，再生中の音量差が小さくなります。

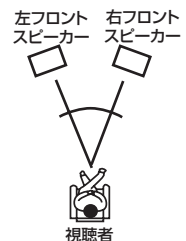
！ヒント

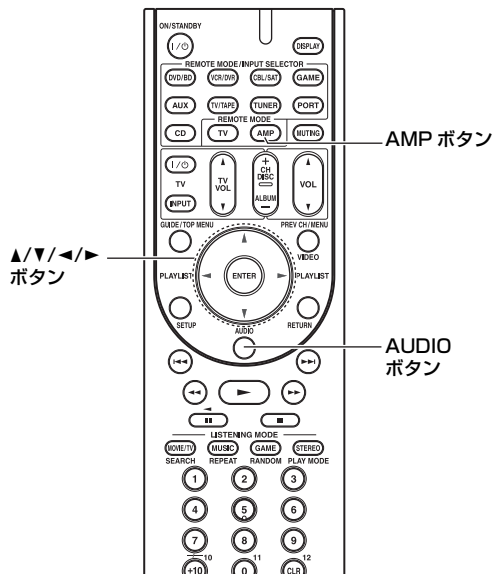
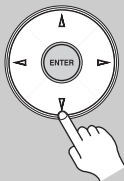
自動スピーカー設定 (➔42 ページ) が完了したあとで、イコライザー設定（Equalizer Settings）を「Audyssey」以外に設定しても（➔66、67 ページ)、Dynamic EQ を「On」に設定すると、イコライザー設定（Equalizer Settings）は「Audyssey」に設定されます。Dynamic Volume を有効に設定すると、イコライザー設定（Equalizer Settings）は「Audyssey」に設定され、Dynamic EQ も「On」に設定されます。Dynamic EQ を「Off」にすると Dynamic Volume も連動して「Off」になります。

Theater-Dimensional Setting

■ シアターディメンショナル時の調整をする

Listening Angle

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide（広い）と Narrow（狭い）のどちらかを選べます。お買い上げ時の設定は Wide です。

音声の設定をする

リモコンの AUDIO ボタンを使って、音声に関する設定をすることができます。

1 AMP ボタンを押してから、AUDIO ボタンを押す

2 ▲/▼ ボタンで項目を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

Bass

フロントスピーカーの低音の音質を、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

Treble

フロントスピーカーの高音の音質を、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

！ヒント

- 本体の TONE ボタン、＋ / －ボタンでも操作することができます。（➔48 ページ）

レイトナイト機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 再生時のみに効果があります。
劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

Late Night

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスを再生するときは：

Off：レイトナイト機能をオフにします。
（お買い上げ時の設定）

Low：音量幅を小さくします。

High：音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD を再生するときは：

Auto：レイトナイト機能は、自動で On か Off に設定されます。（お買い上げ時の設定）

Off：レイトナイト機能をオフにします。

On：音量幅を小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。

！ヒント

- 本体の LATE NIGHT ボタンでも操作できます。

シネマフィルター機能を使う

Cinema Fltr

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードが Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Digital Plus、TrueHD、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、Multichannel、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、Neo:6、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master、DTS Express、AAC の場合に働きます。

ご注意

- 入力信号によっては、シネマフィルターが使用できないことがあります。

On：高音域の補正をします。

Off：シネマフィルター機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

！ヒント

- 本体の CINEMA FILTER ボタンでも操作できます。

Audyssey Dynamic Volume™ 機能を使う

Dyn Vol

Off：Audyssey Dynamic Volume 機能をオフにします。

Light：低圧縮モードが適用されます。

Medium：標準圧縮モードが適用されます。

Heavy：高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与え，再生中の音量差が小さくなります。

！ヒント

- 自動スピーカー設定 (➔42 ページ) が完了したあとで、Dynamic Volume を有効に設定すると、イコライザー設定（Equalizer Settings）は「Audyssey」に設定され、Dynamic EQ も「On」に設定されます。Dynamic EQ を「Off」にすると Dynamic Volume も連動して「Off」になります。(➔69 ページ)

Music Optimizer 機能を使う

M.Optimizer

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。入力ごとに設定を記憶します。

Off：Music Optimizer 機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

On：Music Optimizer 機能をオンにします。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が 48 kHz 以下の PCM 信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。

Speaker Layout 機能を使う

SpLayout

サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーを接続しているときに選ぶことができます。

SurrBk：サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。

FrontH：フロントハイスピーカーからの音声が優先されます。

ご注意

- 「Speaker Type」設定で「Bi-amp」が設定されている場合は、この機能は使えません。
- サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーに対応していないリスニングモードを使用しているときは、この機能は使えません。
- この設定は、リモコンの GUIDE/TOP MENU ボタンでも操作できます。

Speaker Level を調整する

音声を聞きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。

Subwfr（Subwoofer）

－ 15dB ～＋ 12dB の範囲で調整できます。

Center

－ 12dB ～＋ 12dB の範囲で調整できます。

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「Speaker Configuration」(➔62 ページ) で「No」または「None」に設定されているスピーカーは調整できません。
- この機能は、アナログ音声再生時に「Pure Audio」、「Direct」のリスニングモードを使用しているときは、働きません。

A/V Sync 機能を使う

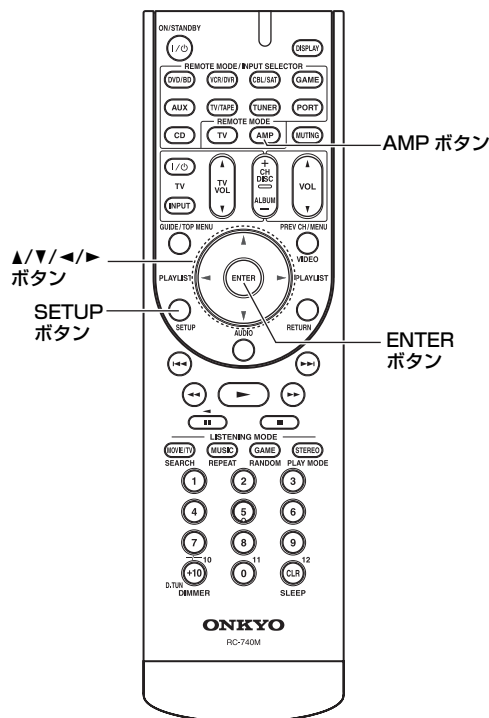
A/V Sync

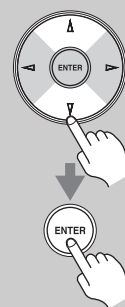
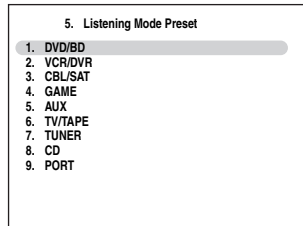
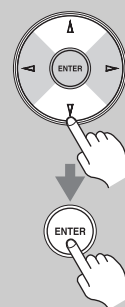
映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。
0 ～ 100ms（ミリセカンド：千分の 1 秒）の範囲を 10ms ステップで、音声の遅延を調整することができます。
詳しくは 74 ページをご覧ください。

設定をする（応用編）

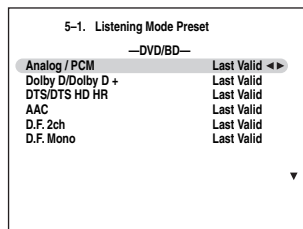
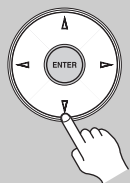
入力の設定をする

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたリスニングモードに戻ります。

1 AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2 ▲/▼ ボタンを押して「5. Listening（リスニング） Mode（モード） Preset（プリセット）」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3 ▲/▼ ボタンを押して入力を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

➡ 手順 *4* に続く

▲/▼ ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◄/► ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

Analog / PCM：
CD などの PCM 信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby D/Dolby D +：
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス対応の信号を再生するときのリスニングモードです。

DTS/DTS HD HR：
DTS/DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ対応の信号を再生するときのリスニングモードです。

AAC：
AAC 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D.F. 2ch：
2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D.F. Mono：
モノラルで記録されたドルビーデジタル、AAC などのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

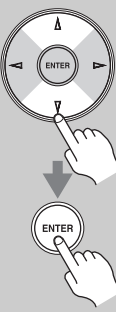
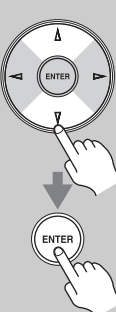
Multich PCM：
HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby TrueHD：
HDMI IN 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD などのドルビー TrueHD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master Audio：
HDMI IN 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD などの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DSD：
スーパーオーディオ CD の DSD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- iPod をセットした UP-A1 シリーズの iPod ドックなどの入力機器を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に「Analog」のみ割り当てることができます。

入力音声の調整をする（音量差調整、遅延補正）

本機に接続した複数の機器間の音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。

1

調整したい入力を INPUT SELECTOR ボタンで選び、接続機器を再生する

たとえば DVD/BD の映像が音声より遅れている場合、DVD/BD を再生します。

2

SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3

▲/▼ ボタンを押して「4. Source Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

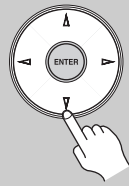
画面が表示され、上段に選択している入力が示されます。

4. Source Setup
—DVD/BD—
1. IntelliVolume
2. A/V Sync
3. Name Edit

4

▲/▼ ボタンで設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は、本ページおよび次ページをご覧ください。

5

▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定を調整する

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

IntelliVolume（機器間の音量差を減らす）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/► ボタンで調整してください。

他の機器と比べて音量が大きい場合は ◄ ボタン、小さい場合は ► ボタンを押して調整します。

- − 12 dB ～+ 12dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

A/V Sync（映像遅延補正）

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。

0 ～ 100ms（ミリセカンド）の範囲を 10ms ステップで、音声の遅延を調整することができます。再生される映像を見ながら調整します。ENTER ボタンを押して再生画面を表示し、◄/► ボタンで調整してください。

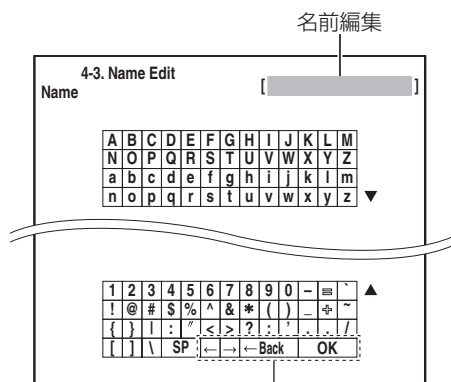
HDMI の「Lip Sync」設定が「Enable」になっていて、お使いのテレビが HDMI Lip Sync 機能に対応している場合は A/V Sync の設定時間が表示されます。HDMI Lip Sync の遅延時間は括弧で表示されます。

ご注意

- A/V Sync 機能は Pure Audio リスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号を Direct リスニングモードで再生する場合も効果がありません。

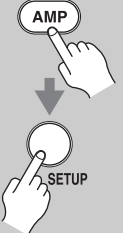
Name Edit（入力に名前をつける）

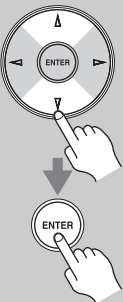
DVD/BD や VCR/DVR などの各入力に名前をつけて表示させることができます。画面上の文字・記号を入力することで変更します。

▲/▼/◄/► ボタンで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押して決定します。この手順を繰り返して変更名を確定した後で、「OK」の文字を選び、ENTER ボタンを押して終了です。

この操作で 10 文字まで入力できます。

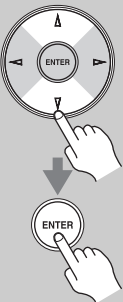
文字を訂正するときは：

1. ▲/▼/◄/► ボタンを押して「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTER ボタンを押す
2. ENTER ボタンを押してカーソルを動かし、訂正したい文字を選ぶ（ENTER ボタンを押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ動きます）
3. ▲/▼/◄/► ボタンで正しい文字を選んで、ENTER ボタンを押す

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。
- 入力につけた名前を初期値の状態に戻したいときは、空スペースを入力して既に入力している名前を消去してください。

音量設定 /OSD 設定をする

「Miscellaneous」のメニューについて説明します。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 ▲/▼ ボタンを押して「6. Miscellaneous」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3 ▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

1 つ前の画面に戻るときは、ENTER ボタンを押します。

5 SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

Volume Setup（ボリューム設定）

■ Maximum Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。30 ～ 79 の範囲内で設定できます。

設定しないときは「Off」を選びます。

■ Power On Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。

MIN・1・2…79・MAX の範囲内で設定できます。ただし、Maximum Volume を設定している場合は、その値までしか設定できません。本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

■ Headphone Level

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

− 12 dB ～＋ 12dB の範囲で調整できます。

OSD Setup（OSD の設定）

■ Immediate Display

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。VIDEO IN （コンポジット）端子に接続した機器からの映像をアップコンバージョンして HDMI OUT 端子から出力している場合のみ働きます。

On：表示します。（お買い上げ時の設定）
Off：表示しません。

■ Display Position

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

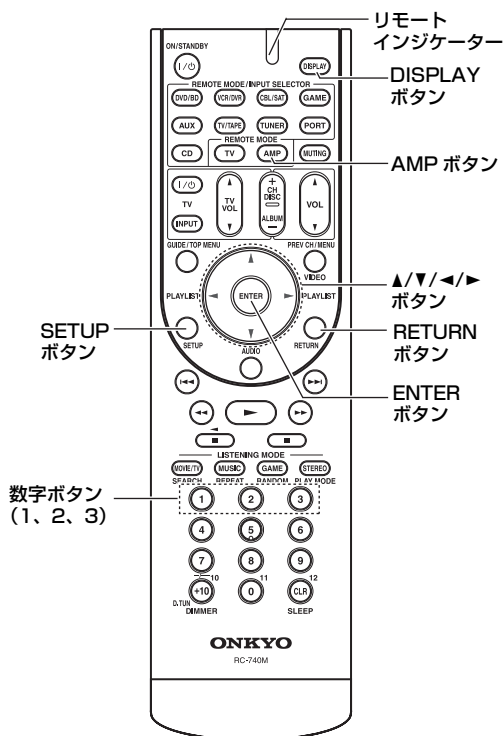
Bottom：画面の下方に表示します。（お買い上げ時の設定）
Top：画面の上方に表示します。

■ Language

操作内容の表示言語を以下の内から選択して設定できます。

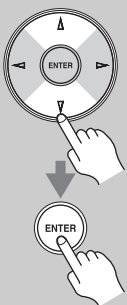
English：英語（お買い上げ時の設定）
Deutsch：ドイツ語
Français：フランス語
Español：スペイン語

ハードウェアの設定をする

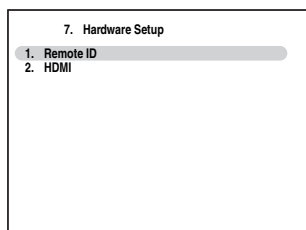
「Hardware Setup」メニューについて説明します。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「7. Hardware Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

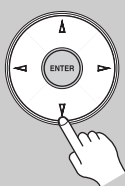
設定画面が表示されます。

7. Hardware Setup

1. Remote ID
2. HDMI

3

▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで設定する

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

Remote ID

■ Remote ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意
- リモコン、本体共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

■ リモコンのリモコンIDを変更する

1

（3 秒間）

AMP ボタンと SETUP ボタンを同時に約 3 秒間、押し続ける
リモートインジケーターが点灯します。

2

設定したいコードの数字ボタンを 1 ～ 3 から選び、押す
リモートインジケーターが 2 回点滅します。

HDMI

■ Audio TV Out (TV 音声出力)

HDMI 端子から音声出力を「する / しない」の設定ができます。本機の HDMI OUT 端子とテレビの HDMI 入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。

Off： 出力しません。（お買い上げ時の設定）

On： 出力します。

ご注意
- 「Audio TV Out」が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- 「On」を選んでいたとき、DISPLAY ボタンを押すことで表示部に「TV Sp On」が表示されます。
- 「TV Control」の設定が「On」の場合、自動的に「Auto」となり「On/Off」の設定は出来ません。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「On」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「Audio TV Out」が「On」に設定されているか、「TV Control」の設定が「On」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（➔20 ページ）、本機のマスターボリュームつまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。

■ Lip Sync

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

Disable： 自動では補正しません。
（お買い上げ時の設定）

Enable： 自動的に補正します。

ご注意
- Lip Sync 機能は HDMI Lip Sync 対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- Lip Sync 機能によって補正される遅延時間を、A/V Sync メニューで確認することができます（➔74 ページ）。

■ x.v.Color

x.v.Color 対応のソースやモニターを HDMI 接続したときに「Enable」に設定すると、色の表現力が向上します。

Disable： x.v.Color を使用しません。
（お買い上げ時の設定）

Enable： x.v.Color を使用します。

ご注意
- 「Enable」にして色がおかしくなる場合は、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ HDMI Control (RIHD)

本機と HDMI 接続した CEC 対応機器や RIHD 対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

Off： RIHD コントロールを使用しません。（お買い上げ時の設定）

On： RIHD コントロールを使用します。

ご注意

- RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。
  「On」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に接続した RIHD 対応機器名称と「RIHD On」を表示します。
  表示例：“Search…” → “(機器名称)” → “RIHD On”
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player ＊」または「Recorder ＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD 対応機器が本機と HDMI 接続されたとき、本機の表示部に接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、本機のリモコンを使用して DVD 操作を行ったなら本機の表示部に DVD プレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「Off」に設定してください。
- 「 On」に設定して、おかしな動作をする場合は「Off」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

Power Control

HDMI で接続された RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「On」に設定してください。
「HDMI Control (RIHD)」を「On」に設定したとき（初回設定時のみ）、この設定は自動的に「On」に設定されます。

Off： 電源連動を使用しません。

On： 電源連動を使用します。

ご注意

- 「 On」に設定しているときは、本機の消費電力が増えます。
- 「 On」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI 入力端子から入力された映像信号は HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力されます。「Audio TV Out」が「On」の場合は、HDMI 音声信号も HDMI 出力端子から出力されます。
- 「Power Control」の設定は、「HDMI Control (RIHD)」の設定が「On」の場合に設定できます。
- 「Power Control」は、HDMI Power Control 機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

TV Control

HDMI 接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「On」にします。

Off： TV 連動を使用しません。

On： TV 連動を使用します。

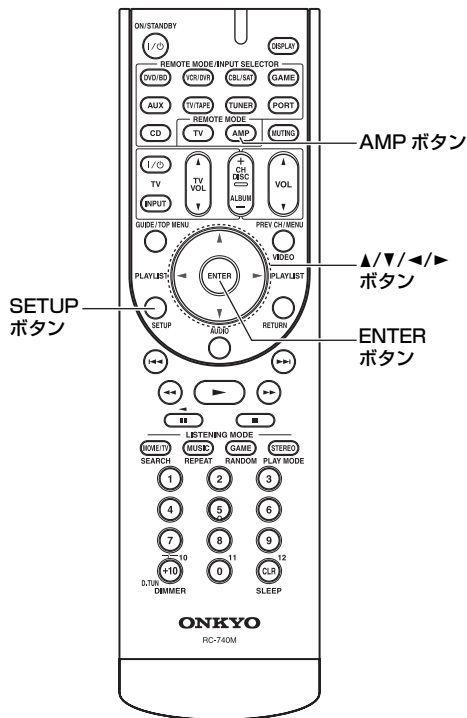
ご注意

- 「TV Control」の設定が「On」のときは、HDMI IN に接続された機器を TV/TAPE 入力に割り当てないでください。適切な CEC（Consumer Electronics Control）操作の保証ができなくなります。
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「Off」に設定してください。
- 「TV Control」の設定は、「HDMI Control (RIHD)」と「Power Control」の両方の設定が「On」の場合に変更できます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 「HDMI Control (RIHD)」、「Power Control」、「TV Control」の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

設定した内容をロックする（Lock Setup）

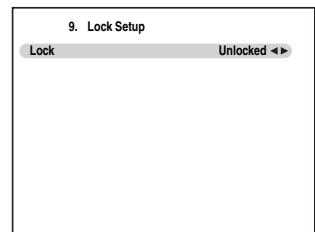
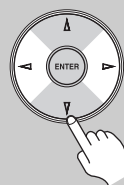
お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「9. Lock Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

◄/► ボタンで選択する

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

Locked：
ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。

Unlocked：
設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

4

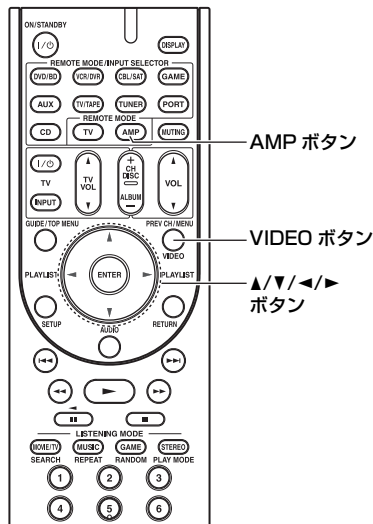
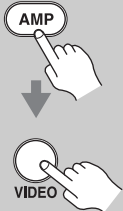
SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

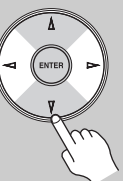
！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

画質調整

ビデオ（コンポジット）、D4/ コンポーネントビデオ端子から入力された映像信号をアップコンバージョンしてHDMI OUT 端子から出力するときの画質を調整します。

1 AMP ボタンを押してから VIDEO ボタンを押す

2 ▲/▼ ボタンで項目を選ぶ

3 ◄/► ボタンで設定を変更する

繰り返すと他の設定を選べます。

■ 解像度（Reso）

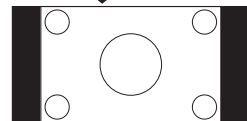
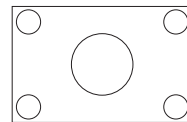
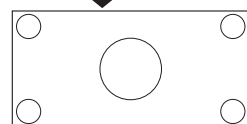
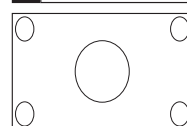
本機がアップコンバージョンするときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。
入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、「映像解像度表」を参照してください (➔106 ページ)。

Through：入力された映像の解像度と同じ解像度で出力します。（お買い上げ時の設定）
Auto：テレビ側が推奨しているいちばん良い解像度で出力します。ただし、テレビが対応していない解像度の場合は、自動的にコンバージョンします。
480p：入力された映像の解像度が 480p にコンバージョンしたいときに選びます。
720p：入力された映像の解像度が 720p にコンバージョンしたいときに選びます。
1080i：入力された映像の解像度が 1080i にコンバージョンしたいときに選びます。

ご注意
- ご使用のテレビがサポートされていない解像度を選んだ場合は、本機の表示部に“（1080i）”などと表示されます。

■ Zoom Mode（Zoom）

480i、480p の入力信号を HDMI 出力端子に出力するときのアスペクト比を設定します。
上記の解像度 (Reso) の設定が 1080i または 720p のときに働きます。

Normal（通常）：

Full：
（お買い上げ時の設定）

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最も暗くなります。+20 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）

この設定でコントラストの差を－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最もコントラストが弱くなります。+20 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue）

この設定で画面の色合いのバランスを－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation）

この設定で濃さを－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最も淡い色になります。+20 は最も鮮やか色になります。

■ シャープネス（Sharpness）

この設定でシャープネスを 0 から +5 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）

デジタル入力モードを DTS、PCM に固定する

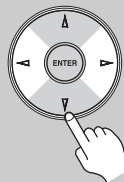
デジタル入力端子が設定されていない入力の場合は設定できません（選択できません）。
（➔39 ページ）
DTS や PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力を DTS または PCM に固定することができます。入力ごとに設定を記憶します。

1

（8 秒以上）

AMP ボタンを押してから AUDIO ボタンを 8 秒以上押し続ける

表示部に現在の入力モード「Auto」が表示されます。

2

「Auto」表示中に ◄/► ボタンを押して、デジタル入力モードを設定する

Auto：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
（お買い上げ時の設定）

PCM：
Auto で CD などの PCM の曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM 以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS：
Auto で DTS-CD を再生するとき、DTS 信号を識別して読み取る間や、CD の早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS 以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

- DTS 対応の CD や LD を再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

お手持ちの DVD プレーヤーや CD プレーヤーなどの AV 機器を本機に付属のリモコンで操作できます。
そのためには、REMOTE MODE ボタンに操作する機器のリモコンコードを登録することが必要です。

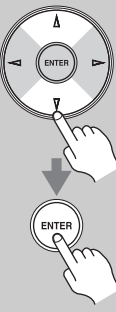
■ 本機に付属のリモコンに登録されているコードについて

REMOTE MODE ボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。お好みで他の機器のコードを登録することもできます。登録のしかたについて詳しくは本ページおよび 86 ページをご覧ください。

- DVD/BD **DVD/BD ボタン**：オンキヨー製 DVD プレーヤー
- CD **CD ボタン**：オンキヨー製 CD プレーヤー
- TV/TAPE **TV/TAPE ボタン**：オンキヨー製カセットデッキ
- PORT **PORT ボタン**：オンキヨー製 UP-A1 シリーズの iPod ドック

リモコンコードを検索する

OSD セットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

ご注意

- この機能は、OSD セットアップメニューのみ使用して行うことができます。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 ▲/▼ ボタンを押して「8. Remote Controller Setup」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

8. Remote Controller Setup
1. Remote Mode Setup

3 ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4 ▲/▼ ボタンを押してリモートモードを選び、ENTER ボタンを押す

カテゴリーの選択画面が表示されます。

5 ▲/▼ ボタンを押してカテゴリーを選び、ENTER ボタンを押す

ブランド名の入力画面が表示されます。

➡ 手順 6 に続く

6

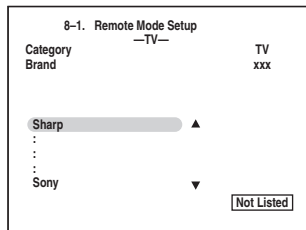
▲/▼/◄/► ボタンを押して文字を選び、ENTER ボタンを押す

ブランド名の入力を、1 文字目から 3 文字目まで繰り返してください。

3 文字目を入力したあと「Search」を選び、ENTER ボタンを押してください。

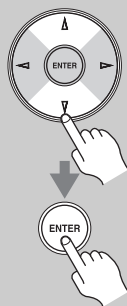
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

8–1. Remote Mode Setup
—TV—
Category　TV
Brand　xxx

Sharp ▲
:
:
:
Sony ▼
Not Listed

ブランド名が表示されなかった場合：

► ボタンを押して「Not Listed」を選び、ENTER ボタンを押す

ブランド名入力画面が表示されます。

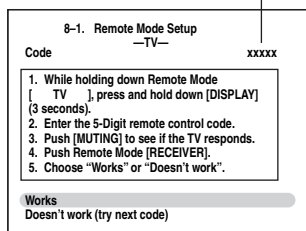
7

▲/▼ ボタンを押してブランド名を選び、ENTER ボタンを押す

検索後、リモコンコードと登録手順が表示されますので、試してみてください。（➔85 ページ）

リモコンコード

8–1. Remote Mode Setup
—TV—
Code　xxxxx

1. While holding down Remote Mode [　TV　], press and hold down [DISPLAY] (3 seconds).
2. Enter the 5-Digit remote control code.
3. Push [MUTING] to see if the TV responds.
4. Push Remote Mode [RECEIVER].
5. Choose “Works” or “Doesn’t work”.

Works
Doesn’t work (try next code)

（登録手順の例）

1. 「TV」REMOTE MODE ボタンを押しながら、DISPLAY ボタンを 3 秒以上押す
2. 5 桁のリモコンコードを入力する
3. 「MUTING」ボタンを押して、TV の反応を確認する
4. 「AMP」ボタンを押す
5. 「Works」または「Doesn't work (try next code)」を選ぶ

8

操作できるときは、▲/▼ ボタンを押して「Works」を選び、ENTER ボタンを押す

「Remote Mode Setup」画面が表示されます。

操作できないときは、▲/▼ ボタンを押して「Doesn’t work (try next code)」を選び、ENTER ボタンを押す

次のコードが表示されます。

➡ 手順 7 を繰り返してください。

9

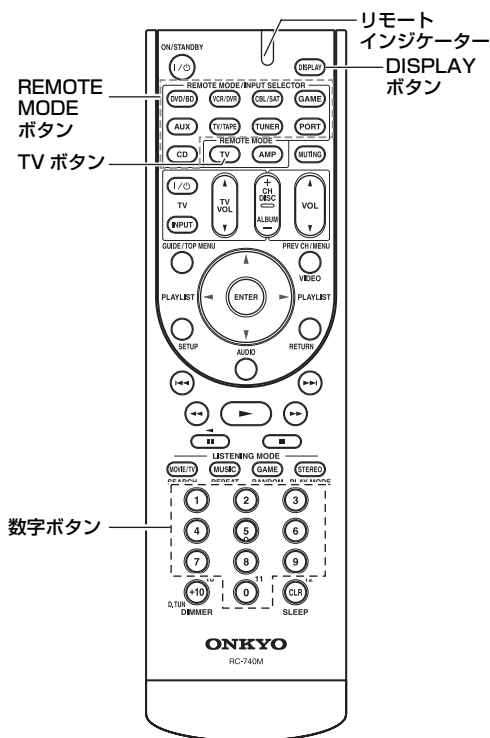
SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

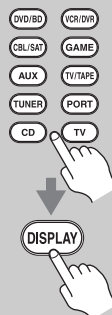
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコードを登録する

1 登録する他機のメーカー別リモコンコード（5 桁）を 87 ～ 89 ページのリモコンコード表で確かめる

2 登録したい REMOTE MODE（リモート モード）ボタンを押しながら、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを 3 秒以上押す

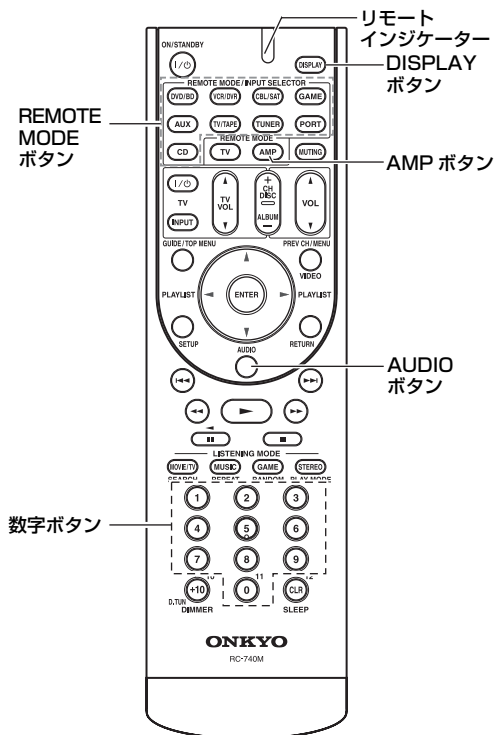
（3 秒以上）

リモートインジケーターが点灯します。

- AMP（アンプ）ボタンには、登録できません。
- TV（テレビ）ボタンには、テレビのコードのみ登録できます。
- REMOTE MODE ボタンは、入力切り換えも兼ねています。
  REMOTE MODE ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。
  たとえば、CD プレーヤーを CD 入力端子に接続しているときは、CD REMOTE MODE ボタンにその CD プレーヤーのコードを登録してください。

3 30 秒以内に、数字ボタンで 5 桁のリモコンコードを入力する

リモートインジケーターが 2 回点滅し、登録が完了します。

- 正しく登録できなかったときはリモートインジケーターがゆっくりと 1 回点滅します。この場合は、もう一度初めから操作し直してください。

オンキヨー製品の RI 専用リモコンコードを登録する

1	**本機とオンキヨー製機器が RI ケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ接続されていることを確認する（➔34 ページ）**
2	**85 ページの手順 *2* の操作をする**
3	**数字ボタンで REMOTE（リモート） MODE（モード） ボタンに RI 専用リモコンコードを登録する** DVD/BD REMOTE MODE ボタン： 31612：オンキヨー製 DVD プレーヤーの RI 専用リモコンコード CD REMOTE MODE ボタン： 71327：オンキヨー製 CD プレーヤーの RI 専用リモコンコード TV（テレビ）/TAPE（テープ） REMOTE MODE ボタン： 42157：オンキヨー製カセットデッキの RI 専用リモコンコード（お買い上げ時） PORT（ポート） REMOTE MODE ボタン： 82351：オンキヨー製 UP-A1 シリーズの iPod ドック（お買い上げ時） TUNER（チューナー） REMOTE MODE ボタン： 51805：オンキヨー製チューナー
4	**本機のリモコン受光部に向けて各機器を操作する** ご注意 • オンキヨー製 iPod ドックを TV/TAPE 端子や VCR/DVR 端子、GAME（ゲーム） 端子に接続しているときは、接続した機器に合わせて入力を切り換える必要があります。（➔41 ページ）

直接オンキヨー製機器を操作するリモコンコードを登録するときは、下記のコードを登録してください。

DVD/BD REMOTE MODE ボタン：
30627：オンキヨー製 DVD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

CD REMOTE MODE ボタン：
71817：オンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

TV（テレビ）/TAPE（テープ） REMOTE MODE ボタン：
70868：オンキヨー製 MD プレーヤー
71323：オンキヨー製 CD レコーダー

REMOTE MODE ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

REMOTE MODE ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには以下の操作をしてください。

1. 初期設定に戻したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、AUDIO（オーディオ） ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 REMOTE MODE ボタンを押すと、リモートインジケーターが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

リモコンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには以下の操作をしてください。

1. AMP（アンプ） ボタンを押しながら、AUDIO ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 AMP ボタンを押すと、リモートインジケーターが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1 つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■ 衛星放送チューナー / ケーブルテレビチューナー / 地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
DX アンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	00008, 00749, 00819, 01284
LG	00144, 01414
NEC	01496
パナソニック	00000, 00008, 00107, 00144, 01488, 00247, 00701, 00847, 01304, 01982
フィリップス	00317, 00817, 01305, 00099, 00173, 00200, 00722, 00749, 00775, 00819, 00847, 00853, 00887, 01076, 01114, 01142, 01442, 01672, 01749
パイオニア	00144, 00533, 00877, 01021, 01500, 01877, 00329, 00853, 01142, 01308, 01442
サムスン	00000, 00144, 01060, 01666, 00853, 01108, 01142, 01206, 01276, 01377, 01442, 01458, 01570
Scientific Atlanta	00000, 00008, 00237, 00277, 00877, 01877
ソニー	01006, 01460, 00639, 00847, 00853, 01558, 01639, 01640
住友電工	01500
東芝	00000, 01509, 00749, 00790, 01284, 01749
フナイ	01377
ヒューマックス	01176, 01427, 01808
ビクター /JVC	00492, 00775, 01775
ケンウッド	00853
マランツ	00200
マスプロ	00173
三菱	00749
ティアック	01251
ユニデン	00722

■ MD レコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868
ソニー	70000

■ CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70034, 70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 70102, 70138, 70381, 71327, 71808, 71817
ビクター /JVC	70032, 70072
ケンウッド	70000, 70028, 70029, 70036, 70037, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70180, 70435, 70626
オンキヨー	70101, 70102, 70138, 70381, 71327, 71817
パナソニック	70029, 70388, 70752
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70000, 70157
サンヨー	70000, 70087
シャープ	70034, 70037, 70180
ソニー	70000, 70100, 71364
ティアック	70180
テクニクス	70029
ヤマハ	70032, 70036, 70868, 71292

■ CD レコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	71323
ソニー	70000, 70100, 71364
ヤマハ	71292

■ カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	40135, 40136, 40282, 40362, 40456, 40520, 42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■ チューナー

ブランド名	コード番号
アイワ	51189, 51269
デノン	1360
インテグラ	51805
マランツ	51189, 51269
オンキヨー	51805
パナソニック	51764
フィリップス	51189, 51269
パイオニア	51023, 51935
サンスイ	51189, 51764
ソニー	51759, 51758
ヤマハ	51023, 50176

■ テレビ

ブランド名	コード番号
BenQ	11756
デノン	10145
DX アンテナ	13817, 11817
富士通ゼネラル	10683, 10809, 10853
フナイ	13817, 10171, 10180, 11271, 11394, 11817, 10000
日立	13691, 10017, 10037, 10047, 10051, 10054, 10092, 10145, 10150, 10156, 10178, 11145, 11156, 11256, 11484, 11576, 11643, 11691, 10000
イイヤマ	10890
ビクター /JVC	13428, 10054, 10093, 10160, 10463, 10650, 10683, 10731, 11253, 11428, 10053
ケンウッド	10180
LG	10017, 10037, 10054, 10060, 10178, 10856, 11178, 11423, 11663, 11768, 12057
マランツ	10037, 10054, 10704, 11398, 11454
三菱	13171, 10093, 10150, 10154, 10160, 10178, 10180, 10250, 10836, 11171, 11250, 10037
ナショナル	10051, 10226
NEC	10047, 10051, 10053, 10154, 10156, 10178, 10661, 10704, 11398
オンキヨー	11807
オリオン	10017, 10037, 10178, 10180, 10463, 11463
パナソニック	13170, 10051, 10054, 10156, 10226, 10250, 10650, 10853, 11271, 11457, 11480, 11636, 11650, 12170, 10037
フィリップス	10000, 10017, 10037, 10051, 10054, 10092, 10171, 10178, 10605, 10690, 11254, 11454, 11506, 11756
パイオニア	13271, 10166, 10679, 11260, 11398, 11457, 12171, 12247, 10037
サムスン	10017, 10037, 10047, 10054, 10060, 10090, 10092, 10093, 10154, 10156, 10178, 10226, 10650, 10702, 10766, 10812, 10814, 11060, 11235
サンヨー	13974, 10037, 10047, 10054, 10145, 10154, 10156, 10171, 10180, 10463, 10704, 11142, 11755, 11974, 10000
シャープ	13165, 10054, 10093, 10180, 10650, 10818, 11093, 11165, 11393, 10053
ソニー	13167, 10017, 10037, 10053, 10150, 10154, 10650, 10810, 11167, 11651, 11685, 10000
ティアック	10037, 10154, 10171, 10178, 11755
テクニクス	10051, 10054, 10226, 10250, 10650
東芝	13169, 10093, 10145, 10150, 10154, 10156, 10166, 10650, 10845, 11145, 11156, 11169, 11256, 11524, 11656, 10060
ヤマハ	10650, 11576
ユニデン	13122, 12122

■ ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	20000, 20032, 20037,20348, 21291
キャノン	20035
デノン	20042, 20081
富士通	20000, 20037, 20045
富士通ゼネラル	20037
フナイ	20000, 20037, 20278
日立	20000, 20035, 20037, 20042, 20045, 20081
ヒューマックス	20739
ビクター /JVC	20045, 20067, 20081, 20084, 21162, 21279
ケンウッド	20038, 20067
LG	20000, 20037, 20038, 20042, 20045, 20225, 20278
マランツ	20035, 20038, 20081
三菱	20000, 20042, 20043, 20060, 20067, 20081, 20642, 20807, 21343
ナショナル	20226
NEC	20035, 20037, 20038, 20067, 20278, 21287
オンキヨー	20222
オリオン	20000, 20278, 20348, 21479
パナソニック	20000, 20035, 20162, 20225, 20226, 20614, 20616, 21062, 21162, 21244, 21293, 21562
フィリップス	20000, 20035, 20045, 20081, 20162, 20226, 20616, 20618, 20739
パイオニア	20042, 20067, 20081, 20162
サムスン	20000, 20038, 20045, 20060, 20739, 21014
サンヨー	20000, 20067, 20348, 21330
シャープ	20000, 20032, 20037, 20807
ソニー	20000, 20032, 20033, 20035, 20067, 20226, 20636, 21296, 21447, 21448, 21972
ティアック	20000, 20037, 20067, 20278, 20642
テクニクス	20000, 20035, 20037, 20081, 20162, 20226, 21162
東芝	20000, 20042, 20043, 20045, 20067, 20081, 20828, 21290, 21972, 21996
ヤマハ	20038

■ オンキヨー製 RI ドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82351, 82990

■ DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533, 30641
デノン	30490, 30634, 31634
フナイ	30675, 30695, 31268
日立	30573, 30664, 30695, 30713, 31247, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32900, 32901
ビクター /JVC	30503, 30539, 30558, 30623, 30867, 31164
ケンウッド	30490, 30534
LG	30591, 32902, 30869
マランツ	30503, 30539, 30675, 31627
三菱	30521, 30713, 31403, 31521
NEC	32902, 30869
オンキヨー	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32900, 32901
オリオン	30695, 30713, 31233
パナソニック	30490, 30503, 30571, 30703, 31010, 31011, 31362, 31462, 31490, 32903, 31762
フィリップス	30503, 30539, 30585, 30646, 30675, 30854, 31260, 31267, 31340, 31354, 32056, 32904
パイオニア	32906, 30525, 30571, 30631, 31571
サムスン	30490, 30573, 30744, 30820, 30899, 31044, 31075, 32269, 32329
サンヨー	30675, 30695, 30713, 31228
シャープ	30630, 30675, 30713, 30752, 30869, 31256, 32909
ソニー	30533, 30864, 31033, 31069, 31070, 31431, 32907, 31533
ティアック	30571, 30675, 32902, 30759, 30768, 31227
テクニクス	30490, 30703
東芝	30503, 30539, 30573, 30695, 31045, 31154, 32901, 31639
ヤマハ	30490, 30539, 30545, 30646

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
パナソニック	32903
フィリップス	32904
パイオニア	32906
サムスン	32905
シャープ	32909
ソニー	32907

■ HD DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
東芝	32901

■ DVD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	30675
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31164
LG	32902
三菱	31403
パナソニック	30490, 31010, 31011
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631
サムスン	30490
シャープ	30630, 30675
ソニー	31033, 31069, 31070, 31431, 32907
ティアック	31227
東芝	31639, 32277
ヤマハ	30646

■ テレビ /DVD 一体型、テレビ /VCR 一体型

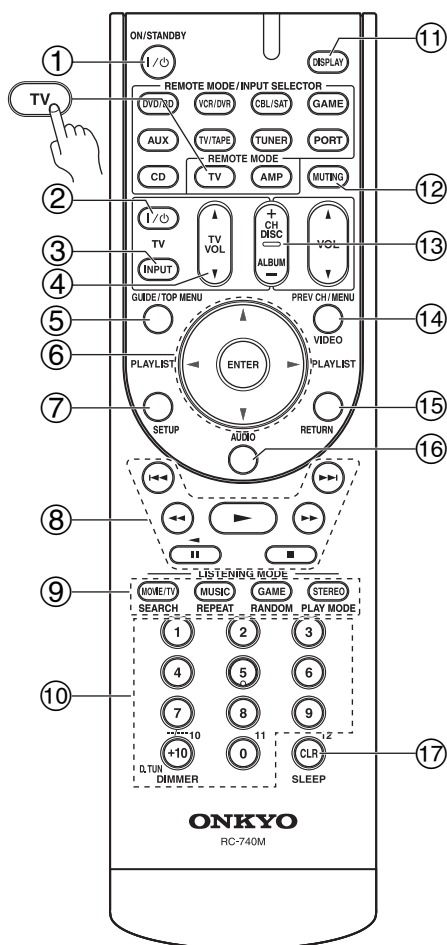
ブランド名	コード番号
LG	10178, 20037
三菱	10093, 20043, 20081, 20807
オリオン	10463, 21479, 30695
パナソニック	10051, 10250, 20035, 20162, 21162
フィリップス	10037, 11454, 20081, 30539, 30854, 31260
シャープ	10093, 20037, 20807
ソニー	10000, 20000, 20032, 21296
ティアック	10171, 10178, 20000, 20037, 20642
アイワ	20000
フナイ	20000, 31268
日立	20000, 30713, 31247
サムスン	21014, 30899
サンヨー	11974, 21330
テクニクス	20081
東芝	11524, 30695

本機のリモコンで他の製品を操作する

テレビを操作する

お手持ちのテレビ（またはテレビと DVD/BD プレーヤーやビデオデッキの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

TV モードボタンには、あらかじめ RIHD に対応したテレビを連動操作するリモコンコードが登録されています。本機と RIHD 対応テレビを HDMI 接続しているときに操作できます。うまく操作できないときは、テレビのリモコンコードを登録して直接テレビを操作してください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① ON/STANDBY ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

② TV（I/⏻）ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ TV INPUT ボタン
テレビの入力を切り換えます。

④ TV VOL ▲/▼ ボタン
テレビの音量を調整します。

⑤ GUIDE ボタン
プログラムガイドを表示します。

⑥ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ SETUP ボタン
設定メニューを表示します。

⑧ 再生操作ボタン *
テレビとビデオデッキの複合機などの ►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）|◄◄/►►|（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑨ SEARCH ボタン、REPEAT ボタン、RANDOM ボタン、PLAY MODE ボタン
青（A）ボタンの働きをします。
赤（B）ボタンの働きをします。
緑（C）ボタンの働きをします。
黄（D）ボタンの働きをします。

⑩ 数字ボタン
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「＋ 10」ボタン * は「－－ / －－－」ボタンの働きをします。

⑪ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑫ MUTING ボタン
テレビのミューティング機能をオン / オフします。

⑬ CH ＋ / －ボタン
チャンネルを選択します。

⑭ PREV CH ボタン
前のチャンネルを選びます。

⑮ RETURN ボタン
設定メニューを終了します。

⑯ AUDIO ボタン *
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑰ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

* の付いているボタンは、RIHD 機能では使用できません。

本機のリモコンで他の製品を操作する

DVD/BD プレーヤー、DVD レコーダーを操作する

お手持ちの DVD プレーヤー（DVD レコーダー、HD DVD、ブルーレイまたは DVD/ テレビなどの複合機）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
DVD/BD REMOTE MODE ボタンには、あらかじめオンキヨー製 DVD プレーヤーのコードが登録されています。それ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。
オンキヨー製 DVD プレーヤーの RI 専用リモコンコード (31612) を登録することで、本機と HDMI 接続した RIHD 対応プレーヤー / レコーダーを操作できます。

- 製品によって、あるいは再生するディスクによっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① ON/STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② TV（I/⏻）ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ TV INPUT ボタン
テレビの入力を切り換えます。

④ TV VOL ▲/▼ ボタン
テレビの音量を調整します。

⑤ TOP MENU ボタン
トップメニュー画面やタイトルを表示します。

⑥ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
DVD のメニュー操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ SETUP ボタン
設定メニューを表示します。

⑧ 再生操作ボタン
►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑨ REPEAT ボタン
くり返し再生をします。

⑩ SEARCH ボタン
タイトル、チャプター、トラック番号や時間をサーチします。

⑪ 数字ボタン
チャプター、トラック番号などを選択します。機器によって「＋ 10」ボタンは、「－－ / －－－」ボタンの働きをします。

⑫ DISPLAY ボタン
DVD プレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑬ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑭ DISC ＋ / －、C H ＋ / －ボタン
DVD チェンジャーのディスクを選択します。または、テレビのチャンネルを選択します。

⑮ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑯ MENU ボタン
DVD のメニュー画面を表示します。

⑰ RETURN ボタン
DVD プレーヤーのメニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

⑱ AUDIO ボタン
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑲ RANDOM ボタン
ランダム再生をします。

⑳ PLAY MODE ボタン
プレイモードのある機器に使用します。

㉑ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。

- A、B、C、D ボタン、カラーボタンのある HD DVD またはブルーレイプレーヤーのコードを登録したときは、SEARCH、REPEAT、RANDOM、PLAY MODE ボタンは、A、B、C、D ボタンまたはカラーボタンとして働きます。この場合、リピート再生、ランダム再生、プレイモード選択は操作できません。

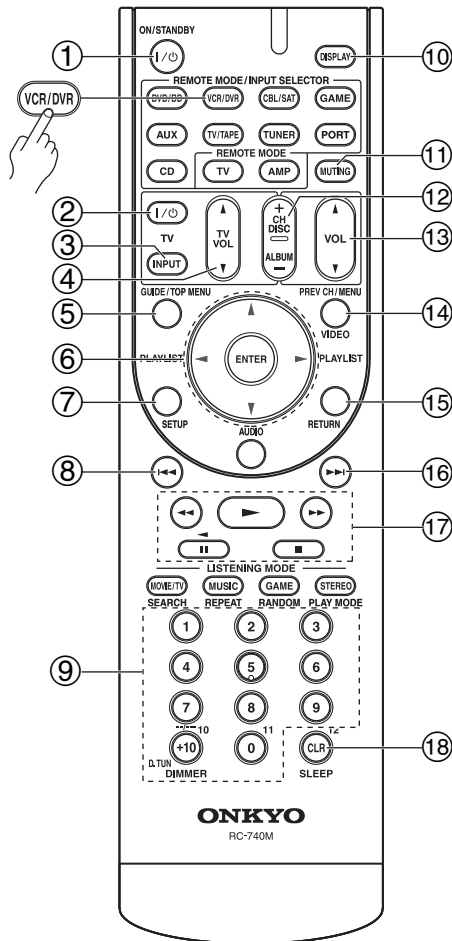
本機のリモコンで他の製品を操作する

ビデオデッキを操作する

お手持ちのビデオデッキ（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
リモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **TV（I/⏻）ボタン**
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ **TV INPUT ボタン**
テレビの入力を切り換えます。

④ **TV VOL ▲/▼ ボタン**
テレビの音量を調整します。

⑤ **GUIDE ボタン**
プログラムガイドやナビゲーションを表示します。

⑥ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押してナビゲーションの項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑧ **⏮ ボタン**
スキップダウンします。

⑨ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「+ 10」ボタンは「−− / −−−」ボタンの働きをします。

⑩ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑪ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑫ **CH ＋ / −ボタン**
チャンネルを選択します。

⑬ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑭ **PREV CH ボタン**
前のチャンネルを選びます。

⑮ **RETURN ボタン**
メニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

⑯ **⏭ ボタン**
スキップアップします。

⑰ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）などを行います。

⑱ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

本機のリモコンで他の製品を操作する

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

お手持ちの衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナー（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
リモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **GUIDE ボタン**
プログラムガイドを表示します。

③ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

④ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑤ **SEARCH ボタン、REPEAT ボタン、RANDOM ボタン、PLAY MODE ボタン**
青（A）ボタンの働きをします。
赤（B）ボタンの働きをします。
緑（C）ボタンの働きをします。
黄（D）ボタンの働きをします。

⑥ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「+ 10」ボタンは、「－－ / －－－」ボタンの働きをします。

⑦ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑧ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑨ **CH ＋ / －ボタン**
チャンネルを選択します。

⑩ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑪ **PREV CH ボタン**
前のチャンネルを選びます。

⑫ **RETURN ボタン**
メニューを終了します。

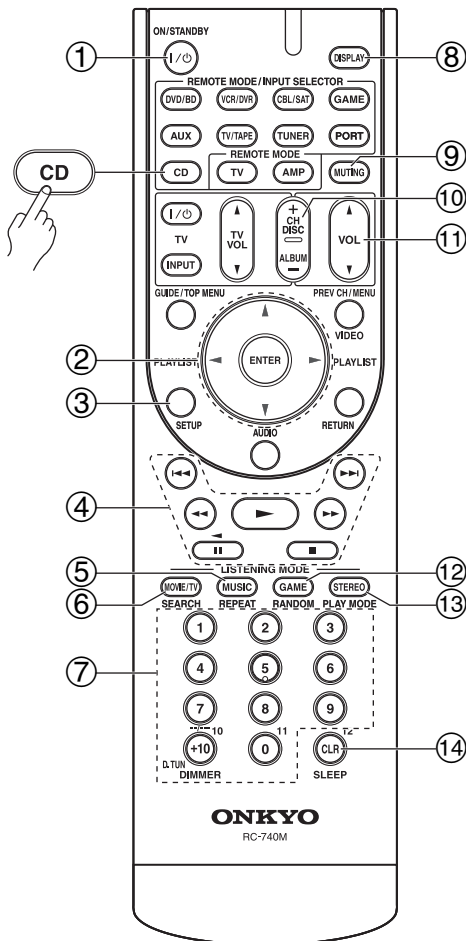
⑬ **AUDIO ボタン**
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑭ **再生操作ボタン**
テレビとビデオデッキの複合機などの ►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）⏮/⏭（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑮ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。

CD プレーヤーを操作する

お手持ちの CD プレーヤーのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
CD モードボタンには、あらかじめオンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコードが登録されています。
リモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン ***
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

③ **SETUP ボタン ***
オンキヨー製 CD プレーヤーの設定を表示します。

④ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑤ **REPEAT ボタン**
くり返し再生をします。

⑥ **SEARCH ボタン ***
再生したい場所をサーチします。

⑦ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「＋ 10」ボタンは、「−− / −−−」ボタンの働きをします。

⑧ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑨ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑩ **DISC ＋ / −ボタン**
CD チェンジャーのディスクを選択します。

⑪ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑫ **RANDOM ボタン**
ランダム再生をします。

⑬ **PLAY MODE ボタン ***
プレイモードのある機器に使用します。

⑭ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。

* の付いているボタンは、RI 接続では使用できません。

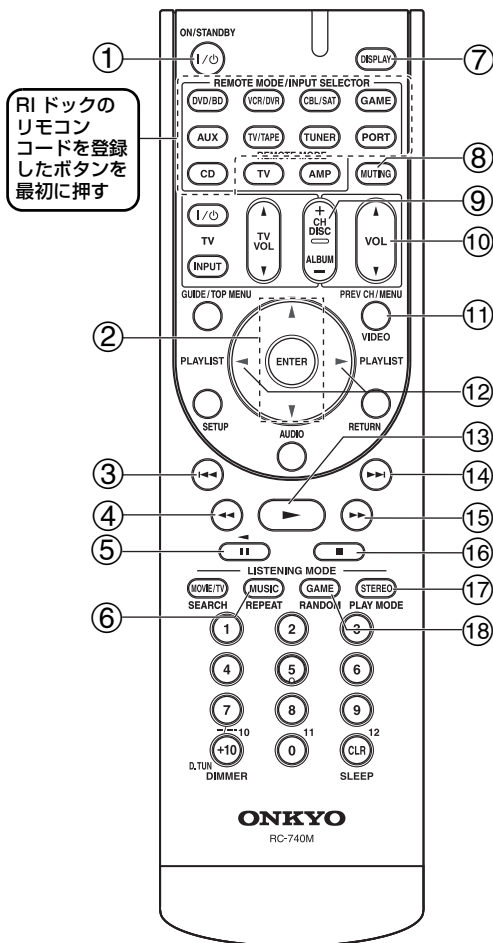
本機のリモコンで他の製品を操作する

オンキヨー製 RI ドックを操作する

オンキヨー製 RI ドックのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。リモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

操作の前にご確認ください

- RI ドックを TV/TAPE IN、VCR/ DVR IN または GAME IN L/R 端子に接続してください。
- RI ドックの RI MODE 切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」にしてください。(➔41 ページ)
- RI ドックの取扱説明書もご覧ください。

① ON/STANDBY ボタン
RI ドックにセットした iPod の電源オン / スタンバイを切り換えます。
1 回押しても働かないときは、もう一度押してください。

② ▲/▼/ENTER ボタン
メニューを操作します。中央の ENTER ボタンを押すと、選んだメニューを確定します。

③ ⏮ ボタン
再生中の曲を頭から再生します。2 回押すと前の曲に戻ります。

④ ◀◀ ボタン
曲を早戻しします。

⑤ ❚❚ ボタン
再生を一時停止します。

⑥ REPEAT ボタン
リピートモードを切り換えます。

⑦ DISPLAY ボタン
iPod のバックライトを 30 秒間点灯させます。

⑧ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑨ ALBUM + / −ボタン
アルバムを選択します。

⑩ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑪ MENU ボタン
メニューを表示します。

⑫ PLAYLIST◀/▶ ボタン
iPod のプレイリストを選択します。

⑬ ▶ ボタン
再生を始めます。

⑭ ▶▶❙ ボタン
次の曲を選びます。

⑮ ▶▶ ボタン
曲を早送りします。

⑯ ■ ボタン
再生を停止します。

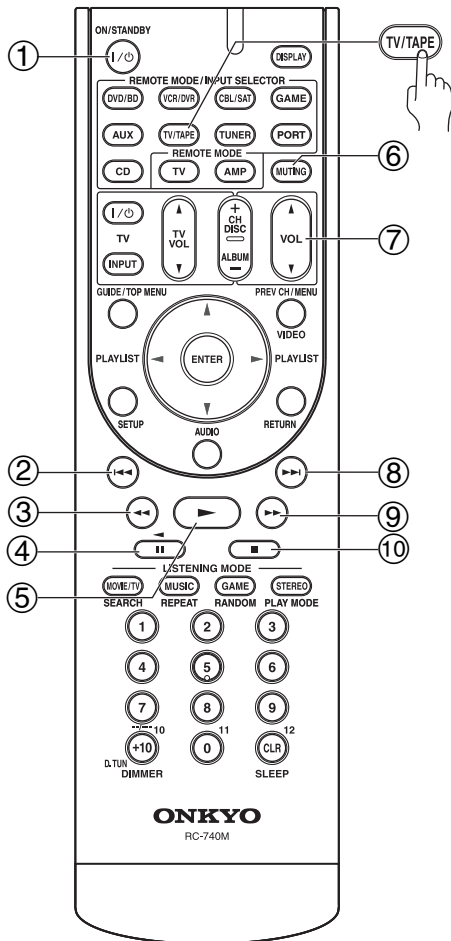
⑰ PLAY MODE ボタン
プレイモードのある機器に使用します。

⑱ RANDOM ボタン
シャッフルモードを切り換えます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

カセットデッキを操作する

お手持ちのカセットデッキのリモコンコードを登録したREMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
TV/TAPE モードボタンには、あらかじめオンキヨー製カセットデッキの RI 専用リモコンコードが登録されています。
これ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、85 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。
- ダブルカセットデッキの場合は、デッキ B のみ操作できます。

① ON/STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② ⏮ ボタン
前の曲の頭出しをします。再生中は、再生している曲の始めに戻ります。

③ ◀◀ ボタン
巻き戻しをします。

④ ◀ ボタン
テープの B 面（裏面）を再生します。

⑤ ▶ ボタン
テープの A 面（表面）を再生します。

⑥ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑦ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑧ ⏭ ボタン
次の曲の頭出しをします。

⑨ ▶▶ ボタン
早送りをします。

⑩ ■ ボタン
再生を停止します。

！ヒント

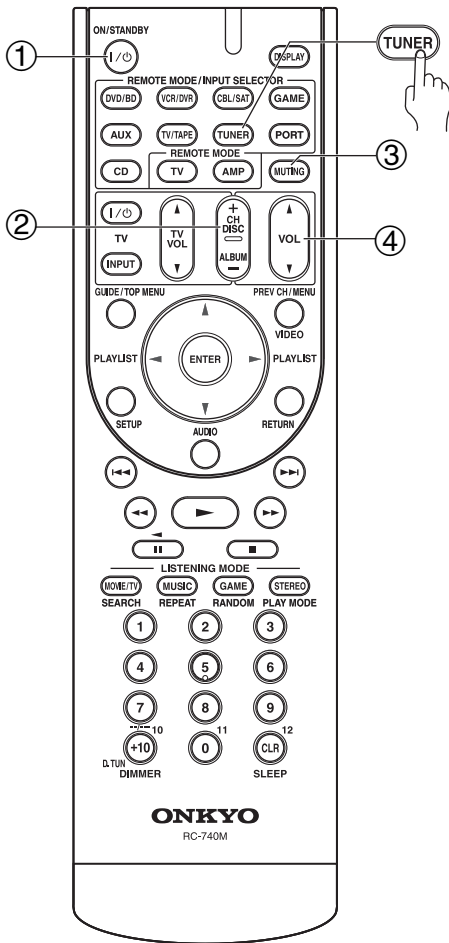
- 本機に RI 接続しているオンキヨー製カセットデッキは、AMP モードでも操作できます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機に RI 接続したオンキヨー製チューナーを操作する

TUNER（チューナー）モードボタンには、あらかじめオンキヨー製チューナーのリモコンコードが登録されています。
はじめに、TUNER ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

- TUNER モードボタンを繰り返し押すことで、AM と FM を切り換えることができます。
- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① ON（オン）/STANDBY（スタンバイ） ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② CH（チャンネル） ＋ / −ボタン
チューナーにプリセットした放送局のプリセット番号を選びます。

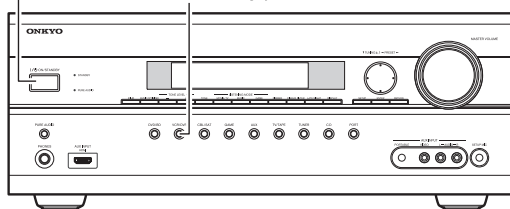
③ MUTING（ミューティング） ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

④ VOL（ボリューム） ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法や FAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント 修理を依頼される前に

すべての設定をお買い上げ時に戻す

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態で VCR（ビデオ）/ DVR（DVDレコーダー） ボタンを押したまま、ON（オン）/STANDBY（スタンバイ） ボタンを押してください。

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

電源

電源が入らない

- **電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。**
- **一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。**

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないかどうかアンプ背面端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。**(16)**
  スピーカーコードをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない / 小さい

- **音声信号の設定はされていますか？デジタル入力の設定を正しく行ってください。(39)**
- **HDMI 端子接続しているときは、HDMI の設定を確認してください。(37)**

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの⊕/⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。**(16)**
- 入力が正しく選択できているか確認してください。**(46)**
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMIN・1・2・・・78・79・MAXまで調整できます。一般のご家庭で 50 前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。**(46)**
- 表示部に「MUTING（ミューティング）」と表示されている場合はリモコンの MUTING ボタンを押して解除してください。**(47)**
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。**(47)**
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。**(30)**
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。**(30)**
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。**(82)**
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。**(55 ～ 58)**
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有 / 無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。**(42 ～ 45、62 ～ 67)**
- HDMI 入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

困ったときは

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか？

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。**(65)**

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカーの「有 / 無とクロスオーバー周波数」の設定を手動で行ってください。**(42 ～ 45、62)**

テスト音は出るが、音が出ない

- 再生する入力信号によっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。**(16)**

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「DTS Surround Sensation」や「Stereo」、「Mono」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。「T-D (Theater-Dimensional)」のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーから音が出ない

- 入力信号やリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない（Dolby Digital、DTS や AAC のフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTS や AAC の音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。**(39)**
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。**(55 ～ 58)**

音量調整が 80(MAX) 以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション)」を使ってスピーカーの音量調整をした場合や、音量の最大出力レベル（Maximum Volume）の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。**(42、65、76)**

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD のいずれかになっているか確認してください。**(70)**

困ったときは

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS インジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする

- HDMI 信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない / 乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機を HDMI 端子接続している場合は、本機とテレビも HDMI 端子接続をしてください。
- テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- VIDEO 端子から入力された信号が出ない場合は、選んでいる入力切換に D4 VIDEO 端子または COMPONENT VIDEO 端子が設定されていないか確認してください。設定されていると、その入力ではビデオ信号では出力されません。VIDEO 端子接続のみお使いの場合は、D4 VIDEO 端子または COMPONENT VIDEO 端子の設定を「－－－－」にしてください。**(38)**
- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると HDMI IN 端子から入力された映像以外の映像は出ません。
- HDMI 入力した映像が出ないときは、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合、テレビがプレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- VIDEO 端子に接続した機器の映像を D4 VIDEO 端子や COMPONENT VIDEO 端子で接続したテレビなどのモニターに変換することはできません。
- ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、VIDEO 端子で接続してください。**(105)**

設定画面表示が出ない / 操作内容が画面に表示されない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- 画面表示は HDMI 接続しているテレビまたはモニターのみに表示されます。

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（⊕/⊖）が正しく入っているか確認してください。**(13)**
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。**(13)**
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**(12、90～97)**
- リモートモードの AMP ボタンを押したあと操作してください。
- リモコンの ID が合っているか確認してください。**(78)**

RI 専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RI ケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI 専用リモコンコードを入力し直してください。**(86)**
- RI 専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**(12、90、91、94～97)**
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TV/TAPE 端子に RI ドックを接続した場合や、VCR/DVR または GAME 端子に RI ドックを接続した場合）**(41)**

オンキヨー製機器（RI なし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**(12、90～97)**
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

困ったときは

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Ambient noise is too high」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Multiplex Input Channel」で主音声 / 副音声を選択します。**(68)**

ヘッドホンを接続すると音が変わる / 表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に Stereo 出力になります。**(47)**

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示部に表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション)」を使ってスピーカーの音量調整をした場合や、音量の最大出力レベル（Maximum Volume）の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。**(42、65、76)**

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

ビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い

ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

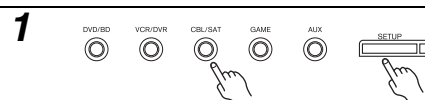
Video Attenuation

規定を超える強いレベルのビデオ（コンポジット・ビデオ）信号が入力してきたとき、ゲインを減衰（Attenuation）させて適切な感度を保つことができます。

- **Video ATT：0（お買い上げ時の設定）**
- **Video ATT：2**

ゲインを 2dB 減衰します。

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

1

設定する INPUT SELECTOR ボタンを押しながら、SETUP ボタンを押す

設定できる INPUT SELECTOR ボタンは DVD/BD、VCR/DVR 、CBL/SAT、GAME、AUX です。

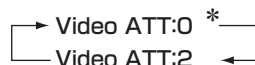
2

◄/► ボタンで設定したい項目を選び、設定する INPUT SELECTOR ボタンを押す

設定が終了します。

* お買い上げ時の設定です。

Video ATT:0 *
Video ATT:2

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビー EX（Dolby EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の 3 つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の 5.1 チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック II（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を 7.1 チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

DSD（Direct Stream Digital）
スーパーオーディオ CD に採用された方式です。100kHz をカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内 120dB 以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTS デジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド（DTS-ES Extended Surround）
従来の DTS5.1ch システムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1ch」と「DTS-ES マトリックス 6.1ch」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1ch 対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。マトリックスデコーダーとして Neo:6 に対応した機器を使用します。

DTS Express
DTS 社が開発した最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1 チャンネル再生する DTS システム。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ（DTS-HD High Resolution Audio）
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

DTS-HD マスターオーディオ（DTS-HD Master Audio）
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

用語集

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding) は、AT&T 社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット(Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

Music Optimizer
MP3 などの圧縮された音楽信号において欠けた高音域を補完する技術です。
自然で高音質な音声再生が可能となります。

音声

アナログ音声
一般的な再生機器に装備されている L/R（白 / 赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル音声
デジタル端子は一般的に、CD プレーヤー、DVD プレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。
接続する機器に OPTICAL 端子がある場合に使用できます。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で同軸コードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。
接続する機器に COAXIAL 端子がある場合に使用できます。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。
44.1 k Hz は 1 秒間に 44100 回、96 k Hz は 1 秒間に 96000 回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルや DTS の低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 6 本のスピーカーを使って再生することを 5.1ch サラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー 2 つで 7ch（7 チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 8 本のスピーカーを使って再生することを 7.1ch サラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

コンポーネント
輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）を 2 つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
S 信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質は D 端子と同レベルです。

D 端子
ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビに D 端子がある場合使えます。
D1 ～ D5 までの解像度のランクがあり、D5 がもっとも高画質です。画質はコンポーネントと同レベルです。
映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
19 ページ参照。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力　全チャンネル
120W（6Ω、全高調波歪率0.08% 以下、1ch 駆動時、20Hz ～ 20kHz、JEITA）

実用最大出力　全チャンネル
185W（6Ω、1kHz、1ch 駆動時、JEITA）

全高調波歪率　0.08%

ダンピングファクター
60（Front、1kHz、8Ω）

入力感度 / インピーダンス
LINE：200mV/47kΩ

出力電圧 / インピーダンス
REC OUT：200mV/2.2kΩ

周波数特性　5Hz ～ 100kHz：+1dB/ － 3dB（ダイレクトモード）

トーンコントロール最大変化量
Bass：± 10dB（50Hz 時）
Treble：± 10dB（20kHz 時）

SN 比　106dB（LINE、IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4Ω ～ 16Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント Y）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性
5Hz ～ 50MHz　－ 3dB

総合

電源・電圧　AC100V・50/60Hz

消費電力　460W

待機時電力　0.1W

最大外形寸法　435（幅）× 176（高さ）× 329（奥行）mm

質量　11.8kg

■ 映像入力：

D4　2（D4 VIDEO IN1、IN2）

コンポーネント　2（COMPONENT VIDEO IN1、IN2）

コンポジット　5（DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX）

HDMI　6（HDMI IN1、IN2、IN3、IN4、IN5、AUX）

■ 映像出力：

D4　1（D4 VIDEO OUT）

コンポーネント　1（COMPNENT VIDEO OUT）

コンポジット　2（MONITOR OUT、VCR/DVR（REC OUT））

HDMI　1（HDMI OUT）

■ 音声入力：

デジタル　4（OPTICAL2、COAXIAL2）

アナログ　8（DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX（PORTABLE）、CD 、TV/TAPE、TUNER）

■ 音声出力：

アナログ　2（TV/TAPE、VCR/DVR）

マルチチャンネルプリ
7

サブウーファープリ
2

スピーカー　左右フロント / センター / 左右サラウンド / 左右サラウンドバック / 左右フロントハイ

ヘッドホン　1

■ その他

音場制御用マイク端子
1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

映像機器をお楽しみいただく際のご注意

本機では、VIDEO 端子（コンポジット）、D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）に接続した機器の映像を HDMI 端子で接続したテレビなどのモニターに変換することができます。
ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。
そのようなときは、画質調整「解像度（Reso)」の設定を「480p」または「720p」に変更してみてください。
(➔81 ページ)

それでも改善されないときは次の方法をお試しください。

1. **本機と映像機器を VIDEO 端子で接続したときは、本機とテレビも VIDEO 端子で接続する**
   本機と映像機器を D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）で接続したときは、本機とテレビも D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）で接続する。
2. **設定画面の「1. Input Assign」→「HDMI Input」を選び、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする**
3. **設定画面の「1. Input Assign」→「Component Video Input」を選び、以下の設定を行う :**
   - 本機と映像機器を D4 VIDEO IN 1 端子（または COMPONENT VIDEO IN 1）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN1」にする
   - 本機と映像機器を D4 VIDEO IN 2 端子（または COMPONENT VIDEO IN 2）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN2」にする
   - 本機と映像機器を VIDEO 端子で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔: 出力します

入力 ＼ 出力		HDMI					D4/ コンポーネント				コンポジット
		1080p (60Hz/24Hz)	1080i	720p	480p	480i	1080i	720p	480p	480i	480i
HDMI	1080p	✔									
	1080i		✔								
	720p			✔							
	480p				✔						
	480i					✔					
D4/ コンポーネント	1080i		✔	✔			✔				
	720p		✔	✔				✔			
	480p		✔	✔	✔				✔		
	480i		✔	✔	✔	✔				✔	
コンポジット	480i		✔	✔	✔	✔					✔

修理について

■ 保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-SA607
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター

☎050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y0904-2

SN 29344958A

(C) Copyright 2009 ONKYO CORPORATION Japan. All rights reserved.